

小平市教育委員会会議録

—— 8 月 臨 時 会 ——

平成23年8月9日（火）

開 催 日 時 平成23年8月9日(火) 午後1時34分～午後5時22分
開 催 場 所 市役所6階大会議室
出 席 委 員 伊藤文代委員長
荒畑忠弘委員長職務代理者
森井良子委員
山田大輔委員
阪本伸一教育長
説明のための出席者 関口徹夫教育部長
内野雅晶教育部理事兼指導課長
有馬哲雄教育部理事(生涯学習・体育)
滝澤文夫教育庶務課長
白倉克彦指導課長補佐
島川浩一教育部参事
佐藤晴美指導主事
坂元竜二指導主事
志村保指導主事
書 記 伊藤祐子教育庶務課長補佐、根岸玄教育庶務課主事
傍 聴 者 20名

午後1時34分 開会

(開会宣言)

○伊藤委員長

ただいまから、教育委員会8月臨時会を開催いたします。

本日は、大勢の傍聴者の方がいらっしやっています。入口でお渡しいたしました傍聴券の裏面に注意事項が記してありますので、ご了解の上、会議開催中はご静粛に傍聴し、円滑な会議の進行にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

(署名委員)

○伊藤委員長

それでは、はじめに、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員でございますが、荒畑委員長職務代理者及び私、伊藤でございます。

(協議事項)

○伊藤委員長

それでは日程第1、協議事項を行います。

協議事項第1、平成24年度から平成27年度使用中学校教科用図書について、協議いただきます。

はじめに、本年度の中学校教科用図書の採択について、これまでの経緯を事務局から報告いただきます。

○内野教育部理事

それでは、中学校教科用図書の採択につきまして、これまでの経過を報告させていただきます。

本年4月の教育委員会におきまして、平成24年度使用中学校教科用図書採択方針及び平成23年度中学校教科用図書採択要領及び同細則を定め、これに基づきまして、5月26日に、学識経験者、保護者代表、小学校長、副校長で構成されます小平市立中学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査部会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

同調査部会では、すべての教科書について、教科、種目、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、同審議委員会に提出いたしました。

また、6月4日から7月10日までの間、市内6館の図書館におきまして教科書の見本本を提示し、あわせて、一般の方々を対象としましたアンケートを実施し、ご意見等を寄せていただきました。

各学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、同審議委員会に提出いたしました。同審議委員会からは、これらの資料をもとに検討し、まとめたものを、調査報告書として提出していただきました。

なお、教育委員の皆様には、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の教科書趣意書、東京都教育委員会が作成しました調査研究資料、図書館で実施したアンケート、またアンケート以外にお寄せいただきました要望書、意見書等の写しをお渡ししているところでございます。これらの資料もあわせてご参照いただき、ご協議いただきたいと思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

採択する中学校教科用図書につきましては、9教科、15種目でございます。協議の手順といたしましては、本日は種目ごとに、国語、書写、社会の地図的分野、歴史的分野、公民的分野、地図、数学、理科、音楽の一般、器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭の技術分野、家庭分野、外国語（英語）の順に、委員の皆様からご意見をいただき、種目別に採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を選定いたします。8月26日の教育委員会定例会では、さらに各種目の候補を1者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、中学校教科用図書の見本も用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、

既に7月定例会でご報告をいただいております「小平市立中学校教科用図書審議委員会報告」についても参考にご協議願います。

なお、進行状況にもよりますが、協議する内容が非常に多いですので、理科の協議に入る前あたりで、1回休憩をとりたいと存じます。

では、はじめに、国語について行います。なお、平成20年3月に学習指導要領が告示されました。それに伴い、国語の教科用図書の内容が新たに変更になっておりますので、学習指導要領の改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

国語におきます新学習指導要領の主な改訂のポイントについてご説明いたします。ポイントは2点ございます。

まず1点目が、言語活動の充実でございます。国語科は、言語力育成の中核を担う教科として、実生活のさまざまな場面における言語活動を、具体的な内容に示すことが記述されております。

2点目は、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の新設でございます。小学校の国語科において、ことわざや故事成語、古文、漢文の音読など、小学校段階から古典に関する指導の充実を図っていることから、より一層の小学校との密な連携が求められます。また教材として、近代以降の代表的な作家の作品を、いずれかの学年で取り上げることが規定されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、国語の協議に入ります。国語につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい国語」、学校図書が「中学校国語」、三省堂が「中学生の国語」、教育出版が「伝え合う言葉 中学国語」、光村図書出版が「国語」となっております。

それでは皆様のご意見を伺いたいと思いますが、例えば東京書籍では「新しい国語」という図書名のものでございますが、この図書名を省略して、発行者で東京書籍、学校図書のものというふうにおっしゃっていただいて、結構でございます。それでは、どなたかご発言をお願いいたします。

○森井委員

国語の5者の中から検討しましたところ、私は、光村図書、東京書籍、教育出版の3者がいいのではないかと考えました。

まず、光村図書ですが、東京都教育委員会の調査研究資料によると、総ページ数が5者の中で一番少ないのですが、聞くこと・話すこと・書くこと・読むこと、伝統的な言語文化のバランスが大変よく、また審議委員会からも、全体の構成、表題の選択ともバランスがよいとの報告がさ

れております。実際に教科書を見ますと、まず字の大きさや行の間隔など、読みやすいこと。また、絵や写真が大変きれいで、文章の邪魔にならない割合で配置されていると感じました。生徒の復習に役立つよう、文法などが巻末にまとめられていることや、中1の古典分野に関しては、興味を引きやすい内容、分量で、スムーズな導入になるように思います。中2、中3とも、巻末の「学習を広げる」では、基礎・基本の定着に加えて、活用するためのさまざまな資料が掲載されているのいいと感じました。

次に、東京書籍ですが、総ページ数が光村図書に次いで少ないということ。また、全体的に聞くこと・話すこと・読むことに重点を置いており、それぞれの単元が大変充実していると感じました。下段に文法や漢字が掲載されているので、生徒が確認しやすいように思います。東京書籍の読む教材には、漢字に読み仮名をつけている量が多いように思います。例えば、中2で取り上げられている「走れメロス」は、5者とも扱われてはいますが、東京書籍のものは読み仮名が大変多くつけられており、各者それぞれの基準で読み仮名はつけられているものだとは思いますが、読み物として、この「走れメロス」を取り上げているのだとすると、東京書籍の読み仮名がたくさんついているということが評価できるのではないかと思います。

次に、教育出版ですが、5者の中でページ数は中間のものです。最初の目次で、読むこと・話すこと・聞くこと・書くこと、伝統文化と言語に必要な四つの要素で構成されていることで、生徒は学ぶべきことがわかりやすいと思います。審議委員会の報告にもありますが、読んでいて、全体に印字が薄いため、見づらいと感じる部分もありますが、中2で「ごんぎつね」を教材として取り上げているということは、小学校から親しんでいる生徒も多いこの作品を中学校で再度取り上げることで、さらに理解が深まるような構成になっているのではないかと思います。

以上3者が、私は教科書としては妥当だと感じましたが、今のところどれか一つというところまでは、選択しきれておりません。

○伊藤委員長

今、森井委員から、光村図書、東京書籍、教育出版についてのご意見がございました。重なる部分があってもよろしいかと思います。ほかにご意見いかがでしょうか。

○荒畑委員

私は、光村図書がよろしいと思いました。その理由を申し上げます。

まず最初に、1年生の教科書として、「言葉に出会うために」の工藤直子さんの「野原は歌う」は、子供たちにとって、非常になじみやすいのではないかと思います。小学校でも扱われており、親しみやすく、小・中連携の意味でも、非常によい教科書ではないかと思います。

続きまして、難易度の異なる教材を、伝統的な内容、また現代的な内容の教材など、非常にバランスよく配置しておりまして、教材の選択もよいのではないかと思います。あと、古典の量などにつきましても、多からず少なからず、内容も、とても扱いやすくできていると思います。

総合的に見て、私も光村図書がよろしいのではないかと思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

ほかにいかがですか。

○山田委員

私も、光村図書がいいかと思っております。学習指導要領の改訂の趣旨も教科書に反映されておりまして、光村図書は、伝統的な種別に基づいて、バランスよく、適切に配置されていると思います。この点、教育出版も、伝統的で、文学的な文章及び説明的な文章、お互いのジャンルの垣根を超えた配列が評価されていると思いました。

一方、光村図書も、2、3年生の古典の配置が扱いにくいのではという評価もありましたが、見た目の話になりますが、光村図書の紙の色が、とてもすっきりとしたクリーム色で、目に優しく、文字、写真、図、イラストのレイアウトなどのバランスが非常によく、とてもすっきりとしていて読みやすいと感じます。全体的に不必要なものがなくてとてもいいと、私は感じております。

以上です。

○伊藤委員長

ただいま、光村図書の2学年の古典の配置がというお話がありました。審議委員会の報告書の中に、光村図書のところに、古典の量、内容とも扱いやすい、構成上の工夫のその他ですね。ただし2年生の初めや、3年生の最後に、古典が活用として出ているが、扱いにくい配置であるというご意見がございました。それは、この2年生の、全く初めではないんですが、初めのほうに「広げる学びへ」ということで、「いろいろな文章に触れ、言葉の豊かさに気づく」という単元で、後のほうに、詩と現代文の後に枕草子が載っております。いろいろな文章に触れ、言葉の豊かさに気づくという学びの中での教材として、枕草子が入っております、それを活用して、自分でも自分流の枕草子を書こう、そういった学習の導入にもなっております。枕草子は、ほかの3者の教科書では、古典というくくりの中に入れておりますけれども、光村図書は、あえて、ほかの学びの中の教材として、現代文と一緒に枕草子を入れております。これは新しい試みかと思えます。

古典につきましては、小学校5年生で竹取物語、6年生でも漢文、中国のものなどをやっております、6年生では狂言について学んでおります。そうしますと、今、小学校である程度古文に触れておりますので、中学生になってから、1年生でスムーズに導入されまして、2年生になりましても、改めて構えることなく、いろいろご意見はあるかもしれませんが、枕草子のような文章でしたら、内容を味わうことができると思うんですね。ですから、私は、むしろこの光村図書の試みは評価できることではないかなというふう感じた次第でございます。

それから、古典について少し申し上げれば、竹取物語について各者1年生で取り上げているわ

けですけれども、ちょっとこれはどうかかなと思ったところがございまして、今の光村図書は、竹取物語は138ページから始まりまして、竹取物語の一部の「蓬萊の玉の枝」を取り上げております。原文が先に載ってございまして、間に現代文で、間のストーリーや解説的なものがあります。そして、また原文が始まります。原文には、いつも下に現代語訳がついているのではなく、語の訳が少し行の隣についております。基本的に、原分を読んで味わおうという姿勢ですね。そして、その後、さらに現代文で解説とつながりが出て、また原文に戻っております。

それに対しまして、東京書籍が、104ページのあたりをごらんいただくとわかるんですが、原文がありまして、下に現代語訳が、すぐございまして。下手をすると、これだけを読んでしまうことになるかもしれません。そして真ん中に、いきなり全く違う紙質で、間についての現代語訳や説明が入ってございまして、また戻るわけですが、少しこの経緯、流れの説明が不足しているように思われます。この折り込みが、少々唐突な感じがいたします。

教育出版につきまして、そういった折り込みはないのですけれども、総じて、どの単元も学習の目標がわかりにくいということを感じます。それと、このように現代語訳がすぐ下にあり、つながりはスムーズなんですけれども、光村図書よりも古文の原文そのものの音読、伝統的な日本の文章になれ親しむ、古文の文章になれ親しむということが少し希薄になるのではないかなという印象を持ちました。これは、今回、学習指導要領で伝統的な文学・文化ということに重きが置かれておりますので、一つ例にとって申し上げます。

私も、そういった点で、光村図書、教育出版もよろしいかと思っておりますが、光村図書が、やはりすぐれているのではといった感じでおります。

教育長、いかがでございましょうか。

○阪本教育長

私も、光村図書と教育出版、比べる訳ではないんですけど、光村図書の教材は、子供たちの興味・関心を引く教材がそろっていると思います。例えば、池上さんですかね。「メディアと上手に付き合うために」というようなことがあったり、それから、五重塔はなぜ倒れないのかと。これは日本の文化伝統を踏まえたものですが、揺れるからこそ倒れない。現代によみがえる技術というようなことで、ちょうど東日本大震災が発生し、だから、逆にいいのかなと思います。

それから、星野道夫さんの「アラスカとの出会い」ですが、これは、教育出版にも「星野道夫さんが見たアラスカ」というのがあるんですが、星野さんというのは、もともと写真家ですから、写真で、やはり勝負をする。自分の思いを伝える手段ですよ。そして、文章と写真が一体となって相乗効果を醸し出すということになりますと、光村図書のほうが、写真がとてもいいですね。

あと、2年生で伊勢英子さんの「旅する絵描きーパリからの手紙」という題材があるのですが、伊勢さんの作品に「ルリユールおじさん」という絵本があり、これとセットで、発展的なものでもいいんですが、あの文章をもとに、絵本まで学習を発展できる、そういう気持ちをかかなり残していて、絵も含めて質が高いと私は思っております。そういう点でいきますと、最初に言いましたように、興味・関心を引く教材が、光村図書のほうに多くあるのかなと思っております。

教育出版にも、窪島さんの「無言館の青春」という、子供にとって心に響く文章があったり、2年生の「ごんぎつね」は小学校でみんな習っただろうと思いますが、改めて読んでみて、どのような印象を受けたでしょうかと、記憶していたのと違っていたところに印をつけたり、よく覚えていた語句や表現に線を引きなさいというようなことがありますね。これは、やっぱり読みを深めるといいますか、子供たちの成長に伴って、本の読みの深まりがあるんだということを実感させるのに、とてもいいと思います。

それから、「走れメロス」ですが、先ほど森井委員からありました、どれだけ読み仮名を振ったらいいかということについて言いますと、これは「平家物語」等の文章もそうですが、その言葉のリズムといいますか、調子を、最大限尊重するということだと、ルビが多くてもいいのかと思いますが、東京書籍はやはりちょっとルビが多過ぎるかとも思います。一回読んでみてうまく読めなかったら、自分でルビを振ればいいのかとっておりますので、人それぞれの読みがあって、自分はここが読みにくい、私はここは円滑に進むというようなことを自覚してみるのも、おもしろいかなと思います。

最後ですが、教育出版のほうは、確かに、伝え合う言葉ということで、1年生が「言葉が願いをつなぐ」、2年生が「言葉が思いを伝える」、3年生が「言葉が世界を広げる」という明確なものを持って、教科書の編集をされているという部分については、子供たちにとって、1年生ではこういうことを目当てにやっているんだなという理解につながっていいかなと思います。

しかし、1年生は加藤周一さんですかね。パスカルとか、孔子とか、先人の言葉が載っておりますが、これが、子供たちの発達段階に対して理解がうまく進むものかどうかというのは、ちょっと私は心配するところでもあります。

そういう面で、私は光村図書と教育出版の2者を今取り上げているんですが、最終的には、迷うところがございます。

以上です。

○伊藤委員長

今、皆さんのご意見によりますと、光村図書、教育出版、東京書籍が出ておりまして、光村図書と教育出版がいいのではないかというご意見が多かったと存じます。

審議委員会からの所見では、国語につきましては、どれが非常にいいのかというよりも、やはり量がふえましたので、それについて心配するご意見が、総じて、どの者のものにもございました。

教育出版に関しましては、「教材をよく吟味し、構成も工夫がされている、ただ、工夫に走り過ぎ、活用についてこだわりがあるため、書き込みが多過ぎる傾向がある」という所見がありまして、光村図書につきましては、先ほど私の意見のところでも申し上げましたことのように、ちょっと課題が増加しているということもございました。

それでは、国語につきましては、光村図書を推す意見がやや大きいかとも存じますが、光村図書出版と教育出版のものを、もう一度念のため、さらに見てみるということにいたしましょうか。

では、国語の議案候補につきましては、発行者名、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」、それと、光村図書出版「国語」が妥当かと存じますが、いかがでございますか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

では、次に、書写に移ります。

書写の主な改訂ポイントにつきまして、事務局よりご説明願います。

○内野教育部理事

書写の指導につきましては、社会生活に役立つことを引き続き重視するとともに、文字文化に親しむようにすることでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

学習指導要領に示された目標のうち、書写に関する項目は何ですか。

○内野教育部理事

学習指導要領に示されていますものは、目標の中に項目というのがございますけれども、第1学年では字の形、字形と申しますけれども、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。また、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。また、第2学年では、漢字の行書と、それに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく、速く書くこと。また、目的や必要に応じて、楷書、または行書を選んで書くこと。第3学年では、身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書くことでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、書写の協議に入ります。

書写につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい書写」、大日本図書が「中学校書写」、学校図書が「中学校書写」、三省堂が「中学生の書写」、教育出版が「中学書写」、光村図書出版が「中学書写」となっております。

それでは皆様のご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○森井委員

すみません。発言をする前に質問をさせていただきたいのですが、書写の教科書は、国語の教科書との関連が必要になりますでしょうか。

○内野教育部理事

種目につきましては、国語と書写は独立しておりますので、関連性ということは考慮しないでいただいて結構です。

以上でございます。

○森井委員

では、今のお答えを受けまして発言させていただきます。

関連があるということでしたら、光村図書がいいかと思ったのですが、関連が必要ないということであれば、私は、教育出版が教科書として適しているのではないかと思います。基本的な部分、例えばお手本が大きいこと、また毛筆を重視していることなど、生徒にとって書写で学ぶべきことがしっかり、丁寧に示されている教科書だと感じましたので、教育出版の書写の教科書がいいと感じます。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにご意見いかがでしょうか。

○山田委員

私も、書写に関しまして、国語との関連性を持たなくていいのであれば、教育出版がよいと思います。教科書自体がとてもきれいで、美しい。毛筆、硬筆の美しさが際立ち、かつ写真も、適度なバランスで見やすい。やはり伝統的な書写教育を踏まえたときには、硬筆、毛筆の手本の見やすさ、使いやすさからも、教育出版が妥当ではないかと感じました。

○伊藤委員長

ほかはいかがですか。

○荒畑委員

私も、教育出版がよろしいのではないかと思います。というのは、本自体が非常に美しく、丁寧につくられていて、書写の教科書としては、そういったことは非常に大切なことではないかなと思います。また、筆の運びを図でわかりやすく説明するなど、基礎の習得がしやすいよう工夫してあるところもよろしいのではないかと思います。生徒が習うとき非常に使いやすいだろうなという印象を受けます。

以上です。

○伊藤委員長

今、美しさということがありましたが、例え、教科に関連あるなしにかかわらず、やはり書写という教科は、文字文化に親しみ、社会生活に役立つことがポイントであるというご説明もありました。このことは、社会の急激な変化や技術革新が進む中でも、変わらず生き続けている日本の文字文化の再認識であり、日本の言語、文化、文字に対する敬意を培うことにもつながるものと思います。そのようなことから考えますと、書写の教科書には、私は一定の品格が求められるのではないかと思います。

そういった点におきまして、光村図書の、こういった内容なり、独創性といえますか、「つくり」、そして教育出版のこのような「つくり」を比べてみますと、やはり教育出版のほうが、品格という点ですぐれているのではないかと、そのように思います。

それから、ただいま事務局からの説明に、第2学年で漢字の行書と、それに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく、速く書くこととございましたが、その漢字の行書と、それに調和した仮名の書き方の取り上げ方については、大日本図書と教育出版が充実しています。数値からしても、この2者が多くなっております。そういった観点からしましても、教育出版が、私は教科用図書として妥当、議案候補として上げるのに妥当ではないかなと思っております。

ほかにいかがでございましょうか。

皆様、教育出版がよろしいというご発言でございました。教育長、いかがでございましょうか。

○阪本教育長

私ども直筆で文書を書いたり、報告書を出すということはないんですが、やはり自分がものを考えたりするときには、この文字というのはとても大切にして、文章を編んでいきます。これが論理的思考のもとになると、私は思います。そして、やはり一字一字を大切にすることが、後々、科学的にも一つ一つの細かなことを大切にすることにつながっていくと、私は思っています。

そういう面では、確かに、大日本図書では、私どもが知っている楷書以外の、たくさん楷書があるのですが、しかし、子供たちには、表紙に私どもがきれいに感じる品格のある文字を使っている教科書がお手本であるほうがいいのではないかと思います。

私どもは、やはり時間数は少なくとも、この書写に対するしっかりした指導を、小学校低学年から中学校まで、一貫性を持ってやっていきたいと思っております。そのためにも、いいお手本が載っている教科書が必要だと思っております。私も、教育出版がよいかなという気持ちでおります。

以上です。

○伊藤委員長

それでは皆様のご意見が一致したということでございまして、書写の議案候補といたしましては、発行者名、教育出版、図書名「中学書写」が妥当かと存じますが、いかがでございましょうか。

か。よろしいですか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次に、社会、地理的分野に移ります。

地理の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

社会科としての改訂の主なポイントは3点ございますので、ご説明したいと思います。

1点目は、基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に修得させることを重視して改善を図ること。

2点目は、言語活動の充実の観点から、社会的事象の意味や意義を解釈する学習や、事象の特色や、事象間の関連を説明する学習などを重視して改善を図ること。

3点目が、社会参画、さまざまな伝統や文化、宗教に関する学習を重視して改善を図ることです。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

では、今ご説明にありましたことを踏まえまして、地理的分野における改訂のポイントは、具体的にどのようなことでしょうか。

○内野教育部理事

1点目としましては、基礎的・基本的なものにつきましては、世界や日本の諸地域の特色について学ぶ項目を設定することが、例として挙げられます。

2点目は、言語活動の充実につきましては、例えば日本の諸地域の学習で、事象に関連づけて地域的特色をとらえる学習活動などがございます。

3点目の社会参画、さまざまな伝統や文化、宗教に関する学習については、身近な地域を調べる学習などで、地域の課題を見出し、その発展に貢献する態度の育成を重視することです。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、地理的分野について、今、改訂の主なポイントということで伺いましたが、その改訂の内容を伺いたと思います。

○内野教育部理事

それでは、改訂の内容についてご説明いたします。6点ございます。

1点目は、世界の諸地域に関する地理的認識を養うことに関する文言の追加及び地域的特色や、地域の課題をとらえることをねらいとしたこと。

2点目は、学習内容の構成を、世界のさまざまな地域、日本のさまざまな地域の、二つの大項目で再構成したこと。

3点目は、世界の諸地域の地域的特色を学ぶ項目を設けて、我が国の国土認識とあわせて、世界に関する地理的認識を重視したこと。

4点目は、日本の諸地域の学習に対し、日本全体について任意に地域区分した上で、それぞれの地域の地域的特色をとらえさせることとし、その際には、各地域の特色ある事象を中核として、他の事象と有機的に関連づけ、地域的特色を能動的にとらえるようにしたこと。

5点目は、地図の活用を中心とした地理的技能の育成を一層重視すること。

6点目は、内容の身近な地域の調査の中で、社会参画の視点を取り入れた調べ学習を行うことでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、地理の協議に入ります。

地理につきましては、発行者4者から見本本の提出がございました。図書名を申しますと、東京書籍が「新しい社会 地理」、教育出版が「中学社会 地理 地域にまなぶ」、帝国書院が「社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土」、日本文教出版が「中学社会 地理的分野」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。いかがですか。

どの教科書も、今、学習指導要領の改訂のポイントにもございましたが、世界の諸地域、それから日本のそれぞれの地方についてバランスよく配列されていると考えられますが、東京都の調査等では、比較的、教育出版に、世界の地域などが多く入っているのかとも思います。ただ、限られた授業時間数の中で確実に習得していくことを考えますと、1年生で学ぶ地理の教科書における情報の分量も要点となってくるかと思いますが、皆様、いかがでございましょうか。

○森井委員

4者の候補の中から、私は帝国書院のものがいいと感じました。審議委員会の報告にあるように、中学校社会科のスタート分野で、地理への苦手意識を持たせないことに適している教科書であるということで、これから歴史、公民へと学習を進めていく上で、基礎的な内容を適量盛り込

んでおり、また写真や絵が多く、生徒の興味・関心を引く上でも大変よい教科書であると思います。また、もくじIVページ、地理の技能をみかくコーナーや、用語の解説も充実しており、生徒にとって扱いやすい教科書であると思いました。

以上です。

○伊藤委員長

私も、帝国書院と教育出版と、両方がいいと思いますが、1年生の理解のしやすさからしますと、帝国書院だろうかとも思っております。地理の知識としまして、領土問題とか、今日的な自由の問題などに関しての叙述について、2者の間で結構差がございまして、大人としては教育出版ほどの叙述内容で学んでほしいという思いもございませうけれども、生徒の発達段階に応じた内容になっていることを考慮しますと、やはり社会科というのは、その後、歴史、公民と積み上げていくものですし、帝国書院のものでまずは基礎的に学び、それから学びを深めてもらえばいいのではないかなと思っております。

それから、先ほど指導要領の改訂の内容の「各地域の特色ある事象を中核として、他の事象と有機的に関連づけ、地域的特色を能動的にとらえるようにしたこと」というのが、事務局からのご説明でございました。

それにつきまして、東京都教育委員会教科書調査研究資料の社会科のところで、各单元において、調査資料の54ページをごらんいただきますと、日本の諸地域で扱っている中核事象というのが一覧表になっております。それにおきまして、各者同じような、例えば北海道でしたら自然環境というのをどこも挙げているのですが、帝国書院だけが歴史的背景となっております。それから、例えば、東北地方は生活文化で一緒ですが、関東地方ですと、ほかの者では他地域との結びつきですが、帝国書院だけ、人口や都市村落という具合になっております。近畿地方も帝国書院だけは、環境問題や環境保全を取り上げております。

こういったところで、帝国書院は中核として取り上げる事象というのが、ほかの3者と違ってはいるんですけども、実際に教科書の内容を読みますと、この帝国書院の取り上げ方が、日本の伝統文化の理解はもちろんのこと、歴史、公民につながる内容もあって、生徒の関心を非常に喚起するのではないかと、評価できるものではないかと思っております。

それから、言語活動、これは生徒の主体的な学習ということにもなるわけですが、「学習のまとめ」というのが充実しておりまして、帝国書院がよろしいのではないかと私は思っておりますが、ほかのご意見はいかがでしょうか、ご発言願います。

○山田委員

私も帝国書院がいいと思います。審議委員会の調査報告書にもありますとおり、全地域の内容を扱っているということであるとか、系統的で、わかりやすい教科書であると思います。とてもよいと思った点は、ところどころに各国の人の声が、それぞれの国のページにあり、口語体で書かれていまして、その国に行ったことがなくても、その国に行ってみたいと思えるような、その

国のよさの一部を感じとれるような、そういった工夫がとてもよいと感じております。また、基礎・基本の内容がバランスよく配置されている。そしてデザイン的にも、写真、配色がとても見やすいと感じております。こういったところからも、中学の社会科の初めの分野として、地理に興味を持てるような、また苦手意識を持たれないような教科書ではないかと感じています。

以上です。

○伊藤委員長

荒畑委員、いかがですか。

○荒畑委員

私は、教育出版がよろしいのではないかと思います。

まず、教科書の紙面なんですが、授業の展開とか、それから学習の見通しをつかみやすいように、1テーマが見開き2ページで構成されており、非常に明るく、見やすく、また生徒の関心・興味を引きやすい、学ぶ楽しさを持った教科書ではないかと思います。

それと、今後の学習をさらに広げたり、深めたりするための課題として「トライ！」だとか、あるいは「地理の窓」などのコラムを設けて、非常にわかりやすい説明がされているという点で、いいのではないかと思います。中学1年生としては少し難しさがあるとは思いますが、内容的に非常に詰まっています、私は教育出版がいいのではないかと思います。

以上です。

○伊藤委員長

教育長、いかがですか。

○阪本教育長

私も、帝国書院かと思っております。端的に言いますと、生徒にとってわかりやすい、生徒が自学自習しやすいというところがよいと思います。私は東京書籍をその次ぐらいに挙げました。これは国土についてもわかりやすく載せていますし、用語の解説も重視しているのですが、ただ、やはりちょっと重たいですね。そういう面でいきますと、やはり使いやすいのは帝国書院かと思っています。

以上です。

○伊藤委員長

審議委員会からの所見を拝見いたしますと、教育出版のほうは、「発展的な内容も詳しく出ていてよいが、中学校3年生くらいの生徒にちょうどよいような感じで、中学校1年生や2年生では難しいという印象を受ける」というのが、総合的な所見でございます。帝国書院のほうには、「週3コマの授業で取り扱うのに適した分量である。」「地理への苦手意識を持たせないことに

適している。」「読んでわかりやすい教科書になっている。」というようなことが、総合的所見として書かれております。

4人の委員が帝国書院が妥当と考えていまして、1人が教育出版ということでございますが、いかがいたしましょうか。

荒畑委員が強く推していらっしゃる教育出版について、私どもも、もう少し見てみましょうか。

それでは、皆様のご意見から、地理の議案候補といたしましては、発行者名、教育出版「中学社会 地理 地域にまなぶ」、そして、帝国書院「社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土」が妥当かと存じますが、いかがでございましょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、社会（歴史的分野）に移ります。

歴史の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

1点目の基礎的・基本的につきましては、例えば我が国の歴史の大きな流れの理解を一層重視して、学習内容を構成することでございます。

2点目の言語活動の充実につきましては、例えば各時代の特色や、その転換について考察し、自分の言葉で表現することなどがございます。

3点目の社会参画、さまざまな伝統や文化、宗教に関する学習については、地理的分野と同様、身近な地域を調べる学習などで地域の課題を見出し、その発展に貢献する態度の育成を重視することでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、歴史的分野の主な改訂内容は何でしょうか。

○内野教育部理事

歴史的分野の主な改訂内容でございますが、5点ございます。

まず1点目は、目標でございます。歴史的分野の学習の中心が我が国の歴史の大きな流れの理解であるという趣旨を一層明確にし、各時代の特色は、我が国の歴史の大きな流れの理解のために踏まえる内容として位置づけたこと。

2点目は、内容の「中世の日本から現代の日本と世界」の各大項目の前半に、政治面などの変革の特色を考えて、時代の転換の様子をとらえる学習を設定したこと。

3点目は、「近現代の日本と世界」という単一の項目であったものを「近代の日本と世界」、「現代の日本と世界」の2項目としたこと。

4点目は、内容の「身近な地域の歴史を調べる活動」において、具体的な事柄を通して伝統や文化への関心を高めるようにすることとともに、各時代の文化を始めとする学習において、伝統や文化の特色の理解につながるような学習内容を一層重視したこと。

5点目は、世界の古代文明や宗教の起こりに関する学習を充実させたり、近現代の欧米諸国のアジア進出を独立の中項目として構成したり、第二次世界大戦後の学習内容に冷戦や、その終結を位置づけたりするなど、我が国の歴史の大きな流れの理解のために、その背景となる世界の歴史の扱いを充実させたことでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、歴史の協議に入ります。

歴史につきましては、発行者7者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会 歴史」、教育出版が「中学社会 歴史 未来をひらく」、清水書院が「新中学校 歴史 日本の歴史と世界」、帝国書院が「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」、日本文教出版が「中学社会 歴史的分野」、自由社が「新しい歴史教科書」、育鵬社が「中学社会 新しい日本の歴史」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。

○荒畑委員

それでは、社会の歴史的分野につきまして、教科書編集の趣意書、また審議委員会の調査報告書、教科書の内容、また自分自身の考えを含めまして、意見を述べさせていただきます。

7者ございまして、いろいろ目を通させていただきましたが、私といたしましては、教育出版と清水書院の2者がよいのではないかと思います。その理由を申し上げたいと思います。

まず、教育出版でございますが、第1点目としまして、小学校の歴史学習との接続、関連を非常に大切にしている点。特に第1章では、ステップ1からステップ5まで、小学校で学習した歴史上の人物を振り返り、時代区分や年表の見方を確かめ、歴史の移り変わりを考えようという学習をするなど、小学生からのつながりから入っていることが、大変よいと思います。また、各ページの表題がキャッチフレーズでまとめられておりまして、生徒にとって、非常に内容に入りやすくなっている点もよいと思います。

2点目としましては、第2章から第8章までのそれぞれの章末で「学習のまとめと表現」、「時代の変化に注目しよう！」のページを設けまして、学習したことを活用して時代の特色について考え、表現する言語活動を取り入れているところがよろしいと思います。また、日本と世界の動きが同時に見ることができて、非常にわかりやすいと思います。

3点目といたしましては、本文の学習をさらに広げたり、深めたりする課題として「トライ！」や、あるいは関連する話題を「歴史の窓」として紹介しております。さらに学習の流れに即して「読み解こう」というコーナーを設けまして、歴史資料、人物、地域、世界のテーマから歴史をさらに掘り下げて、個々に応じた学習の効果が進められるように工夫されているということです。

4点目といたしましては、巻末の折り込みに、歴史年表を原始古代から現代までの全時代を一覧できる両開きの折り込みページがありまして、時代の大きな流れや、現代からの距離をつかみやすく工夫されていること。また、2011年の「東日本大震災が起こる」という記載も、今をあらわしているという点で、非常にいいのではないかと思います。

5点目としましては、教科書の紙面は、授業の展開や学習の見通しをつかみやすいように、1時間、見開き2ページで構成されており、非常に明るく見やすく、また、生徒が歴史学習をする際に、興味・関心を喚起されて、楽しく学べるのではないかと思います。

6点目といたしまして、本文記述と資料が視覚的にとらえやすく配置されていて、歴史の学習に大切な写真とか、絵とか、地図とか、図解などの資料も豊富に掲載してある点は、非常にいいのではないかと思います。

7点目といたしまして、領土問題の扱いにつきまして、北方領土問題の歴史的経緯とともに、竹島、尖閣諸島の領有をめぐる動きにつきましても、コラムや写真で取り上げているということは、よろしいのではないかと思います。

8点目としまして、伝統と文化を尊重し、育んできた郷土や日本への愛着、それと同時に他文化との共生も理解していく、そのような内容が工夫されている点もいいと思います。

最後になりますが、各時代の文化史の記述を充実させながら、文化遺産の写真も豊富に掲載して、それに国宝とか重要文化財、世界遺産とわかるようマークをつけている点もよろしいと思います。

ただ、ちょっと注文をつけるとしますと、文章の文字がちょっと小さいので、もう少し大きかったらよかったなという点がございます。それと、余分なイラストを余り多くしないようにしていただければと思います。それと、世界史の内容も大変充実しているのですが、時系列になっていない点が少し気になります。ただ、総合的に見て、非常に内容が濃く、教育出版がよろしいと思います。

続きまして、清水書院につきまして申し上げたいと思います。

少々重複する点もあると思いますが、まず第1点が、小学校社会科の歴史学習を踏まえて、「歴史の流れを知ろう」、「お気に入り年表をつくろう」などの日本の歴史上の人物や出来事を中心にした学習をするなど、小学生からのつながりから入っている点は、基礎的事項をしっかり押さえた内容になっているというところで、非常によろしいのではないかと思います。

また、2点目としましては、第1章から第6章まで、それぞれの章末で時代の流れをまとめて整理しており、各章で学んだ範囲で学習を深めているところがいいと思います。

3点目としまして、発展的内容の「深める歴史」が精選されており、生徒の興味を引き、理解

を深めるのに役立つのではないかと思います。

4点目としまして、ページごとに「まとめてみよう」、「調べてみよう」、「考えてみよう」、「深めよう」といった課題が提示されていて、学習を進めるのに大変役立つかと思います。特に見出しから内容が予想できて使いやすく、重要な語句が太字で示されていて、説明もわかりやすく書かれております。

5点目としましては、144ページにとじ込みの年表が入っておりますけれども、「日本と世界の歩み」というところで、主な出来事とか、主な文化が見やすく、わかりやすく書かれている点もいいと思います。

6点目としましては、文字、絵、写真にもユニバーサルデザインという配慮がなされており、障がいのある生徒にも理解しやすい構成になっている点が、非常によいと思います。特に文字が大きくてわかりやすいうえ、余分なイラストがなく、その分資料を充実させているところが、いいと思います。

7点目としましては、歴史上の人物、事件などのコラム、記事が豊富に掲載されている点。また歴史的遺産、文化財などの、世界遺産と国宝に該当する写真にはそれぞれマークをつけるなどして、生徒の関心を高めている点もいいと思います。

内容として、生徒が習いやすく、勉強がしやすいという点では、清水書院が飛び抜けていると思います。

ただ、少し気になる点としまして、領土問題の扱いが非常に少ないことがございます。ただこれは、次の話になりますが、公民には領土問題のことを多く取り上げているので、総合的に見て、清水書院がよろしいのではないかと思います。

ちょっと長くなって、申しわけございませんが、以上です。

○伊藤委員長

非常に詳しく、教育出版と清水書院について述べていただきました。

ほかの委員の皆様、ご意見ありますでしょうか。

○森井委員

私も7者中、清水書院がいいと感じました。今、荒畑委員がおっしゃったことで、ほとんど網羅されているかと思いますが、私が一番によいと思った点は、やはりキャラクターが使われていないということと、文字が大きく見やすいこと。また、基本的事項がしっかりと押さえられていること。先ほど荒畑委員もおっしゃったように、年表が見やすいということなども、生徒が授業に集中できるようにつくられていると感じました。学習内容についてもバランスがよく、日本史、世界史の内容について偏りがなく、分量も適切で、生徒の発達段階に応じた内容であり、全体を通して学習を進めるのに役立つ構成で、教科用図書として評価できるとの審議委員会からの報告もありますが、私も清水書院の教科書が妥当であると考えます。

○伊藤委員長

山田委員、いかがでしょうか。

○山田委員

私も清水書院がいいかと思っております。審議会調査報告書にもありますとおり、確かに、章末のまとめはやや簡潔になるかもしれませんが、中世ヨーロッパからルネッサンス期のところで、生徒にとって理解しやすいような工夫があったり、内容・分量も適切で、要所要所にある「深める歴史」は、もう一步先の発展的な内容となっております、基礎・基本をしっかりと押さえていると思います。理解しやすい、バランスのとれた内容だと思っております。またデザイン的にも、ほかと比べ、文字サイズが若干大き目で、行間も適度にあり、イラスト、写真、配色など、非常に見やすく、生徒の学習にとって非常にいいのかなとも思っております。

以上です。

○阪本教育長

私は、清水書院と教育出版の2者を、今のところ候補にしています。清水書院は、総合的にはいいと思うんですが、ただ、表現の中にやや偏った表現かなと思うものがありまして、そこが少し気になるところです。

○伊藤委員長

どの部分が偏っているのでしょうか。

○阪本教育長

近現代の事象のとらえ方といいますか。

教育出版のほうは、そういう面では表現は余り偏りが無いとは思いますが、それから、拉致問題の話も出ましたが、領土問題についてももしっかり押さえていると思います。

もう一つは、教育出版の146ページに、坂本龍馬と横井小楠というページがあるんですが、どうしても坂本龍馬については、ブームといいますか、ある部分で表面的なところだけを評価したりして、それを坂本龍馬ととらえているんですが、そういう面で教育出版の、坂本龍馬という人の思想を支えた、明治維新に向けてのいろいろな人たちのかわりというものを載せているのは、なかなかいいなと思っております。

また、小学校、中学校の一貫性ということについても、教育出版は押さえているということが感じられます。

以上です。

○伊藤委員長

私は、清水書院がよろしいかと思えます。内容的には、教育出版もよろしいのですけれども、

内容的にはなく、総合的に、学習指導要領改訂内容をバランスよく具現化しているという点で、この七つの出版社の中でも、この2者がすぐれていると思います。中でも、生徒が学びやすいという点から、清水書院がいいかと思います。例えば、歴史を学ぶのに、配列が時系列になっていないというのは、やはり教えるに、学ぶに、ということにつながるものではないかと。学びやすさという1点をとって清水書院で、ほかの部分でも幾つか感じました。それはちょうど荒畑委員もおっしゃってくださいましたし、山田委員のご発言にもありました。

委員の皆さんのご発言でちょっとご説明を求めたいのですが、清水書院ではキャラクターが使われていないのでいいという森井委員のご発言がございましたが、それはどういうお考えで、キャラクターがないほうがいいということなのでしょうか。

○森井委員

ほかの教科ではキャラクターが入っているものもあり、それが生徒の興味・関心を引くきっかけになっていると思うのですが、歴史に関しては、まず事実を子供たちに伝えるときに、そのキャラクターが吹きだしなどで、どうなのかな、こうなのかな、というような文言で子供達に問うような部分は、私は必要ではないのではないかと感じました。キャラクターが教科書に入ることが学習に集中するのに役立つとは思えないという感じも受けました。

○伊藤委員長

そういうお考えで、キャラクターが使われてないのがよいというご発言があったんですね。

それから、教育長のご発言で、清水書院には近代のところで叙述に偏りがあるということでしたが、具体的にどの場所でしょうか。ちょっと気づかなかったのですが。

○阪本教育長

歴史のとらえ方の中で、何カ所もといったらちょっとおかしいんですけども、全体的にそういうものがありまして、少しやわらかな表現のほうがいいのかなというところも感じられましたので、発言をしました。

○伊藤委員長

それにつきましては、私どもも読み直してみることにいたします。

○阪本教育長

全体的なバランスとすれば、教育出版と清水書院の二つを、今のところ候補として挙げております。

○伊藤委員長

審議委員会からの総合的な所見については、森井委員、それから荒畑委員のご発言の中にもご

ございました。教育出版については、「全体としては評価できるけれども、時系列に課題がある」という所見ですね。それから清水書院につきましては、「基礎事項を押さえていて、理解しやすい。教科用図書として歴史の学びはじめの内容が充実している。教科用図書として高く評価できる」といった所見がございます。こうした点も参考にいたしまして、2者で、さらに検討をしていくということにいたしたいと存じます。

それでは、皆様のご意見から歴史の議案候補といたしましては、発行者名、教育出版「中学社会 歴史 未来をひらく」と、清水書院「新中学校 歴史 日本の歴史と世界」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、社会、公民的分野に移ります。

公民の主な改訂ポイントについて、事務局よりご説明願います。

○内野教育部理事

公民的分野におきます具体的なところでございますが、1点目は、基礎的・基本的について、例えば現代社会の理解を一層深めることを重視したことでございます。

2点目の言語活動の充実につきましては、例えば自分の考えを論述したり、議論などを通して、互いの考えを深めたりすることを重視したことでございます。

3点目の社会参画、さまざまな伝統や文化、宗教に関する学習については、例えば文化の役割を理解する学習や、社会科のまとめとして社会的な課題を探求し、論述する学習を行うことでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、公民的分野の主な改訂内容はいかがでしょうか。

○内野教育部理事

公民的分野の主な改訂内容でございますが、4点ございます。

まず1点目は、内容に「私たちが生きる現代社会と文化」を新たに設けたこと。また、現代社会における文化の意義や影響について理解させるとともに、我が国の伝統や文化に関心を持たせるようにしたこと。さらに内容の「世界平和と人類の福祉の増大」でも、国際社会における文化や宗教の多様性について指導をすること。

2点目は、内容に「現代社会をとらえる見方や考え方」を設け、政治や経済などについての見

方や考え方の基盤となる概念的枠組みを形成するため、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を重視したこと。

3点目は、内容の「市場の働きと経済」、「日本の尊重と日本国憲法の基本的原則」、「民主政治と政治参加」では、法や金融教育などに関する学習を重視したこと。

4点目は、持続可能な社会を形成するという観点から、課題を探究させ、自分の考えをまとめさせることをねらいとして、内容の「よりよい社会をめざして」を、今回新たに設けたこと。このことは、公民的分野はもとより、地理的分野、歴史的分野などの学習の成果を生かし、これからのよりよい社会の形成に主体的に臨む態度を養うこととしたこととさせていただきます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、公民の協議に入ります。

公民の議案候補といたしましては、発行者7者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会 公民」、教育出版が「中学社会 公民 ともに生きる」、清水書院が「新中学校 公民 日本の社会と世界」、帝国書院が「社会科 中学生の公民よりよい社会をめざして」、日本文教出版が「中学社会 公民的分野」、自由社が「新しい公民教科書」、育鵬社が「中学社会 新しいみんなの公民」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがでございましょうか。

○森井委員

見本本が提出されている7者を見させていただきまして、私は、教育出版と清水書院のものがいいと思いました。

まず教育出版ですが、写真や図が多く、生徒の興味・関心を引くように工夫がされているということ。また章ごとの「学習のまとめと表現」は、生徒の理解を深めるのに役立つ内容になっており、「トライ！」なども、生徒に考えさせるきっかけづくりとしてはよい投げかけをしていると思います。また「公民の窓」では、発展的な内容も取り扱っており、生徒の理解度に合わせて活用できるのではないかと思います。

審議委員会からも、教科用図書として評価できるとの報告もあり、生徒にとってわかりやすい教科書であると思います。

一方、清水書院ですが、導入のページの「学習のはじめに」で、生徒が初めて学ぶ公民について、わかりやすく示している点。また、公民という難しい科目を身近な視点から徐々に生活、社会、文化、そして日本から世界へと広げていく過程がわかりやすく、生徒にも理解しやすい形になっていると思いました。簡潔で、わかりやすい文章と、大きく見やすい文字により、授業の理解度も増すのではないかと考えます。難しい言葉には解説がわかりやすく載せられており、「公民ファイル」という資料のページは、難しい内容をわかりやすく、図や表を用いて示されており、

生徒の理解を助ける内容になっていると思います。中1、中2で地理、歴史を勉強してきた中3の生徒が学ぶ教科書として、大変よいと思います。

審議委員会からの報告で、構成、配列が、生徒にとって理解しやすく、活字、色彩なども見やすく、障がいのある生徒への配慮がなされているなど、内容、分量、表記・表現、必要上の便宜など、教科用図書として評価できるとの報告もあり、指導をする上でも使いやすい、大変よい教科書ではないかと思いました。

以上です。

○伊藤委員長

教育出版と清水書院が挙げられました。同じ、あるいはほかにも、いかがでございましょうか。

○山田委員

私も、その2者の中で言えば、清水書院がいいと思っております。まずは生徒にとって生活に即した身近な事例や題材、身近に感じることのできる写真や資料が多く掲載されている点。そしてわかりやすく、理解しやすい事例を多く扱っているという点が良いと思っております。また「公民ファイル」という、資料ページが1から18まで、約10ページ間隔で散りばめられています。さらに、1ページないし2ページと大きく扱っており、生徒の理解の一助となる内容が非常にいいと思いました。

あと、やはりデザイン的にも、ほかと比べ、文字サイズが若干大き目で、行間もしっかりあり、イラスト、写真なども非常に見やすい。こういったものが、生徒にとって学習に集中できるものであると感じております。

○伊藤委員長

荒畑委員、いかがですか。

○荒畑委員

私も、お二人の委員と同じで、7者のうち教育出版と清水書院に絞らせていただきたいと思っております。先ほど歴史のところでも長々と申し上げましたけれども、基本的には同じでございます。教育出版は内容が濃く、盛りだくさんに書かれているということで、そういった点で、勉強のしがいがあるのではないかなと思います。

一方、清水書院につきましては、先ほども言いましたけれども、公民で領土問題等を詳しく書かれているという点が、非常によいのではないかと思います。

それと、行ったり来たりして申しわけございませんが、教育出版のほうにつきましては、郷土や日本の伝統文化に対する愛着を深めるとともに、他文化共生社会を創造して、多様性の中で生きる寛容な社会の実現について探求しているということで、そういった点に力を入れて工夫されているというのも、よろしいのではないかと思います。

清水書院と教育出版の2者が、よろしいというふうに思います。

以上です。

○阪本教育長

私も清水書院と教育出版、2者に絞らせていただきます。清水書院のほうが、ぱっと手に取って持ちやすいし、それから読みやすいというのがあります。教育出版のほうは、やはり文字が小さくて、余白が少ないなど。いずれにしても、両方とも、子供たちにとっては理解しやすい内容かと思います。

ただ、清水書院のほう国際政治の仕組みのところ、日本の領土と経済水域というのを、国際環境の中に、国際法ということで取り上げていますし、また、国会についても、役割を述べてるのはいいなと思っておりませんが、いずれにしても、この2者で少し考えたいと思っております。

○伊藤委員長

私も、皆さんと全く同様です。ただ、清水書院のほう、やはりよろしいかと思っております。それは、一つには、先ほど改訂内容のご説明のところ、法や金融教育などに関する学習を重視したということがございましたが、清水書院では、第2編の第2章第3節「国境をこえる経済」の1「企業活動のグローバル化」ということから始まって、経済に関してのことが、見出し一つずつ、非常にわかりやすく述べられております。

清水書院は、その後の、これからの日本経済についても続けて述べられているのですが、その点、教育出版に関しましては、第4章「私たちの暮らしと経済」で、その後、第5章「安心して暮らせる社会」のところに「労働と社会保障」が先にあって、その後、再び「これからの日本経済の課題」となっているんですね。「グローバル化する経済」に関してもそうです。その点でここは、単元のくくり、目次が、少し流れとしていかなものかと感じました。

それから、教育出版の第6章「国際社会に生きる私たち」のところでも、まず、「国際社会が抱える課題」を先にしております。2番目に、「国際社会を支えるしくみ」として、国際法とか国家について叙述があるわけですが、清水書院は、まず「国際社会を生きる」という章においては、「国際政治のしくみ」で国際連合について述べた後で、現状、それから、「国際社会の課題」とあり、その後、「持続可能な未来へ」と続いております。学習の流れとして、現在、さまざまなメディアから情報を得ている生徒の興味・関心に沿った流れになるのではないかなと感じております。

そういった意味では、清水書院のほう、より学びやすいのではないかなという見解を持っております。

それでは皆さんのご意見からしまして、公民の議案候補といたしましては、発行者名、教育出版「中学社会 公民 ともに生きる」と、清水書院「新中学校 公民 日本の社会と世界」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

地図に移ります。

地図の主な改訂ポイントについて、事務局よりご説明願います。

○内野教育部理事

今回の改訂では、中央教育審議会の答申にもございますが、教科用図書の地図、すなわち地図帳には、一般図や所在図、その他写真、資料などの地理情報がありますが、それらが必ずしも十分に活用されていない状況から、教科用図書地図を十分に活用することという文言が加わったことがございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、地図の協議に入ります。

地図の議案候補といたしましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会科地図」、帝国書院が「中学校社会科地図」となっております。

それでは皆様のご意見を伺いたいと思います。

○山田委員

地図は2社ございますが、私は、帝国書院がいいと思っております。

まず、もう一つの東京書籍は、資料は、確かに充実しておりますが、逆に、若干情報過多かと。地図として使い始めるには、使い勝手が若干悪いのかなと感じます。地図と地図の間に資料が載っておりますが、少し地図としての使いづらさを感じました。地図の本来の使い方としては、やはり使いやすさ、見やすさが大事であると思っております。

また、東京書籍は一番最初に目次がなくはないのですが、目的のページをすぐ見つけづらく感じました。帝国書院は、1ページ目に、ぱっと開くと、目次が一番最初に出ておりますので、目的のページをすぐに発見できると感じました。そして、地図としては、この帝国書院が、やはりワイド版ということで、非常に見やすい。これが1冊あれば自学だけにとどまらず、その後、ずっとあっても非常に使い勝手がいいものだと感じました。

以上でございます。

○伊藤委員長

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

帝国書院が妥当とのご意見ですが。

○荒畑委員

地図につきましては2社ございますが、私も、帝国書院がよろしいのではないかと思います。その理由につきまして申し上げます。

まず第1点が、学習指導要領の改訂点に関し、構成や表記などの点で工夫がされており、新しい教科書の学習内容に十分対応できる内容であるということです。そして、地理学習が進めやすいような構成になっておりまして、各地域の諸資料は多過ぎず、少な過ぎず、適当であり、中学1年生の生徒でも十分に活用できる内容となっている点が、まず第1点としていいのではないかと思います。

第2点目といたしましては、地理だけでなく、歴史や公民の学習でも活用できるような内容も入っておりますので、中学校3年間を通して使用できるという利点があるのではないかと思います。また鳥瞰図というのは、皆さんご存じだと思いますが、高所から斜めに見おろしたように描いた地図や風景図ということですが、地域全体を見る上でとても効果的な地図であると思います。

3点目といたしまして、今、山田委員がおっしゃいましたけれども、地名等に対してほぼ振り仮名がつけられているので、生徒にとっては使いやすく、またワイド版で、地図は大変見やすくなっており、それほど重くありません。また情報量につきましても多すぎず、授業で使いやすいのではないかと思います。

4点目としまして、地図の内容がしっかりしておりまして、地図帳としての機能を十分に果たしているように思います。

5点目としましては、日本の領域と近隣諸国の様子がわかるように、日本の位置と周りの国々の様子が一目瞭然わかるようにできております。163ページを見ると、そのようになっております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございますか。

○森井委員

私も、今、荒畑委員、山田委員がおっしゃっていたように、帝国書院の地図帳がいいと思います。理由としましては、お二方の委員さんからすべてお話しいただいた部分と重複しておりますが、地図帳としての使いやすさから見て、帝国書院の地図がよいと思います。

以上です。

○阪本教育長

私も帝国書院です。地図帳としての機能は高いですね。そして、これは地図だけではなくて、いろんな部分が、全体の部分も、そして一部の部分も、明確、明瞭にできておりますので、非常に見やすいということ、使い勝手がいいということで、帝国書院を推させていただきます。

○伊藤委員長

皆さん、帝国書院がよろしいということで、私も全く同意見です。皆さんが言い尽くしてくださいました。指導要領ポイントに、今まで活用が十分されていなかったのが、地図を十分に活用することという文言がつけ加えられたそうです。活用しやすい地図帳ということで、帝国書院のご意見で一致したかと存じます。

それでは、委員の皆様のご意見から、地図につきましては、発行者名、帝国書院「中学校社会科学地図」が妥当かと存じます。いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、数学に移ります。

数学の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

数学に関します新学習指導要領の改訂のポイントは4点ございます。

1点目は、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、数学的な思考力、表現力を育て、学ぶ意欲を高めること。

2点目は、学習内容の一部を重複させる反復学習、スパイラルとも申しますが、反復学習と算数的活動の充実を通して、知識・技能の確実な定着や思考力や判断力、表現力を育成していくことの重視。

3点目は、数学的な思考力、表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示すこと。

4点目は、学習し、身につけた内容を日常生活や他教科等の学習、より進んだ数学の学習へ活用していくことでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、数学における言語活動ということがよく言われますけれども、数学科における言語活動とはどのようなものでしょうか。

○内野教育部理事

数学科におけます言語活動といたしましては、例えば根拠を明らかにして、筋道を立てて体系的に考えさせるために、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、自分の考え方をわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現したり、伝え合ったりする活動が上げられております。以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、数学の協議に入ります。

数学につきましては、発行者7者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい数学」、大日本図書が「数学の世界」、学校図書が「中学校数学」、教育出版が「中学数学」、新興出版社啓林館が「未来へひろがる数学」、数研出版が「中学校数学」、日本文教出版が「中学数学」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと存じます。いかがでございましょうか。

○山田委員

数学の教科書は、全部で7者ございまして、目を通しながら、そして審議会調査報告書なども参考にさせていただきました結果、私は、東京書籍がよろしいかと思えます。学習指導要領の改訂の趣旨は、7者ともそれぞれ反映されているということでございまして、まず一つ目、基礎・基本の既習事項を振り返る工夫も、各者なされておりますが、とりわけ、この東京書籍の、確かめ、問いという流れで、学習事項をその場で振り返ることができる構成が、生徒にとって非常にわかりやすいのではないかと思います。

また、個々に応じた学力定着につながると思われる「ちょっと確認」や「もっと練習！」などの一口メモ、コメントも、ページの右側に多くまとめてあるのがとても使いやすいと思えました。

また2点目、レイアウトに関しまして、どの教科にも言えることですが、文字、写真、図、イラストによる、レイアウトの見やすさ、使いやすさは、やはり、学ぶ上で大変重要であると思えます。そして、家庭学習、自習をするうえで、まず目次の見やすさだけを取り出ししても、この東京書籍と、もう一つは、学校図書の2者が、非常にわかりやすいと思えます。さらに、この東京書籍は、ほかと比べまして、最初のページのほうに目次がぼんと出てきて、家庭学習、自習する上では、非常に使いやすいのではないかと思います。

そして、とりわけ、この東京書籍は、ノート指導を意識した表現が多いというふうに評価されており、全体的に、文字、写真、イラスト、空白のバランスがとてもよく感じられます。

3点目、これもレイアウトについてなんですが、目次から目的のページに飛んだ先で、見やすいな、使いやすいなと感じていまして、ページ数と何章、何節とページの上に記載してあると、非常に見やすいと思えました。それに関しましては、啓林館と大日本図書にもありました。

続いて4点目、東京書籍の教科書に、家庭での学習の手引が載っておりまして、やはり予習、

復習などでも自習しやすい。先ほど述べましたように、「考え方」、「ちょっと確認」、そして「間違い例」、「もっと練習!」、「やってみよう」、など吹き出しや一口メモが充実していて、とてもよいと感じました。

そして最後に、東京書籍の表紙、紙質ですね。見た目の落ち着き感とか、さわり心地、マットコート紙というんでしょうか、個人的には非常にいいのではないかと。紙質でいきますと、東京書籍、教育出版の教科書がよいと思います。

以上から、総合的に判断をいたしまして、私は、東京書籍が妥当ではないかと思いました。

以上でございます。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございますか。

東京書籍が妥当ではないかというご意見でございました。

教育長、ただいまノート指導ということが、山田委員のご発言の中にありました。小平市の小学校における算数もそうですが、そして、そこからまた中学校においてもノート指導に重きを置かれているようですね。

○阪本教育長

今、委員長がおっしゃいましたように、小学校の段階では、ノート指導を、各学校、力を入れてやっております。ノートというのは、自分の思考、考え、それを論理的にまとめ、表現して、なおかつ、それを時には人にちゃんと説明するという一連の流れがあります。そして、これは小中の一貫の中で、やはり9年間で、我々が育てようという子供たちの重要な柱の一つであります。そういう面では、私も、東京書籍を推すところでございます。

東京書籍は、そのほか、一見したときの圧迫感がないんですね。どの子もすっと入っていけるような余白がうまくとってあり、表現も簡潔です。やはり数学ですから、その部分は簡潔でいいと、これは数式と同じです。

それから、家庭学習にやはり対応している。これは数学はもちろん、家庭学習、予習、復習がこれからは大きなウエートを占めるわけですので、これが使いやすいのかなと思っています。また課題も段階的に設定されているということで、私は東京書籍を推させていただきます。

以上です。

○荒畑委員

私は、東京書籍がよろしいのではないかと思います。今、教育長と山田委員が大体おっしゃいましたので、重複してしまうかと思いますが、である調で、簡潔にわかりやすい表現にまとめてあって、大変読みやすいと思います。また例題に、ノート指導を意識した表現がされているということも習いやすいのではないかと思います。それと、節末、章末には、基本の問題、章の問題が多数掲載されておりまして、中身も非常に濃いと思います。また、多くの資料を取り上げてお

りまして、生徒の興味・関心を高める工夫がされているのもいいのではないかと思います。

総体的に見て、東京書籍の「新しい数学」がいいと思います。

以上です。

○森井委員

私も、皆様と同様に、東京書籍が7者を見させていただいた中でいいと思います。先ほど数学に関する新学習指導要領の改訂ポイントということでお話をいただきましたが、その中に、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、学ぶ意欲を高めるということがありましたが、数学の教科書は、生徒にとって一番にわかりやすいものでなくてはならないと考えます。その点からも、東京書籍の教科書は、写真、イラストが大きく、見やすいこと。また問題がはっきりして見やすく、行間が適度に空いているというところが、生徒にとっても理解を深めるのに役立つと思いました。

また、「数学マイノート」というページなど、ノート指導も充実しており、数学科における言語活動を高める工夫もあると思います。生徒にとって大切な授業の振り返りも自分でできるよう、家庭学習の手引を入れたり、習熟度に応じた問題も充実しており、そのような点を総合して、私も東京書籍の教科書がいいと思います。

○伊藤委員長

皆さん、東京書籍を推してらっしゃいますが、7者あって、ごらんになるのも大変だったと思いますが、7者から、まず学校図書と東京書籍の2者に絞られて、それから、さらに装丁から、見やすさ、わかりやすさ、問題の数、解説の簡潔さ等々から、審議委員会の報告等も参考にしまして、私も東京書籍が妥当ではないかと考えるに至りました。これは、皆様、数学においては東京書籍ということで一致したかと存じます。

それでは、委員の皆様のご意見から、数学の議案候補といたしましては、発行者名、東京書籍「新しい数学」が妥当かと存じます。いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そういうことにいたします。

次は理科でございますが、冒頭に申し上げましたように、ここで休憩をとりたいと思います。

15時40分まで休憩といたします。

午後3時17分 休憩

午後3時40分 再開

○伊藤委員長

それでは、休憩前に引き続き、理科から協議を再開いたします。

理科の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

理科に関します新学習指導要領の改訂のポイントについてご説明いたします。

生徒が知的好奇心や探究心を持って自然に親しみ、目的意識を持って観察や実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養うことのできるよう改訂が図られております。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、主な改訂内容はいかがでしょうか。

○内野教育部理事

それにつきましては4点ございます。

1点目は、科学に関する基本的概念の一層の定着を図り、科学的な見方や考え方、総合的な見方を育成すること。

2点目は、科学的な思考力、表現力の育成を図ること。

3点目は、科学を学ぶ意義や有用性を理解させ、科学への関心を高めること。

4点目は、科学的な体験、自然体験の充実を図ることでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、理科における言語活動にはどのような内容がございますか。

○内野教育部理事

理科におけます言語活動といたしまして、例えば観察や実験の結果や解釈を行う学習活動において、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするために、レポートの作成や自己の考えの発表、また互いに討論するなどの言語活動がございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、理科の協議に入ります。

理科につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい科学」、大日本図書が「理科の世界」、学校図書が「中学校科学」、教育出

版が「自然の探究 中学校理科」、新興出版社啓林館が「未来へひろがるサイエンス」となっております。

それでは皆様のご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○荒畑委員

それでは、理科につきまして意見を述べさせていただきます。

理科につきましては5者がございますけれども、私は、大日本図書がよろしいのではないかと思います。その理由につきまして申し上げたいと思います。

まず第1点でございますが、単元の導入で、小学校の学習を振り返るなどの工夫をされており、小中の一貫した流れを重視し、学年間の学習が無理なく接続できるようにしてあることが、非常によろしいのではないかと思います。

2点目といたしまして、トピック「暮らしの中の理科」など、豊富な資料をもとに幅広い知識や教養を身につけられるように配慮されていることも大変いいと思います。

3点目といたしまして、確かな学力が身につくように、基礎的、基本的内容を中心に、指導内容が大変充実しております、「やってみよう」、「つくってみよう」、「考えてみよう」など、能力に応じて取り組める工夫がされており、生徒個々の能力を伸ばし、創造性を培えるようにしてあることもいいと思います。

4点目といたしましては、安全面に大変配慮した記述が、明確に書いてあることでございます。特に注意として書いてあり、下地が黄色で注意事項が書いてある点は、非常にわかりやすく、生徒が習いやすいと思います。また章末問題、単元のまとめ、単元末問題が大変充実している点もいいと思います。

5点目といたしましては、各領域を色分けしたインデックスで示してあるのが、よろしいと思います。1年生から3年生まで、3年ごとに色分けしてございます。また本文中の重要語句については、ゴシック体に振り仮名がつけられており、基礎・基本の定着を図る工夫がされているのがわかります。

6点目といたしましては、挿絵、写真などが数多く、わかりやすく、大変充実している点が、生徒にとって習いやすいと思います。

7点目といたしまして、これはちょっと前置きがよくないんですけれども、ページ数は多く、理科が苦手な生徒にとっては難しく感じられるかもしれませんが、全体的には大変指導がしやすく、わかりやすい内容構成となっております。細かく丁寧に書かれている点が、大変よいと思います。

8点目としまして、環境保全に寄与する態度を養えるように、また郷土の自然に親しみを持つように、さらに国際社会に貢献する意識や思慮を養えるような学習内容にかかわる身近な地域の写真や資料を掲載してあること。

このようなことを総合いたしまして、大日本図書がいいのではないかと思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

大日本図書がいいのではないかというご発言がございました。ほかに、同じ、あるいはほかにということでご意見ございませんでしょうか。

○森井委員

私は、5者を見させていただいた中で、東京書籍の教科書がいいと思いました。

まず中1の教科書は、文字が大きく、行間も広いので、読みやすいという点と、挿絵や写真がきれいという点で、生徒が家庭で読み返したときに、興味・関心を引くよい教科書ではないかと思えます。

また、新学習指導要領の改訂のポイントにもありました、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に調べる能力や態度を育てるための工夫がされていること。内容については、科学の有用性や、日常生活、社会、環境との関連についても積極的に取り上げていると思えます。また、全学年に理科室の決まりと、応急処置のページが掲載されており、科学的な認識の定着と、科学と生活とのかかわりについても大変勉強になるのではないかと思います。

審議委員会の報告には、グラフや図表、写真が鮮明で見やすく、効果的に使用されており、生徒の学習意欲を高めることが期待できるとあり、理科嫌いの生徒をつくらないためにも、大変わかりやすい東京書籍の教科書がいいと感じました。

以上です。

○伊藤委員長

東京書籍というご意見がございました。ほかにございませんでしょうか。

○山田委員

私も、東京書籍、そして、学校図書がいいなと思えました。では、学校図書について触れたいと思うんですが、まずは審議会報告書にもあるように、小学生のときの内容、また下位学年の内容、そして3年生の教科書では、高校の理科の勉強につながるような、そういった非常に連携のとれた教科書ということがございますので、その点ですばらしいと感じました。

また、基本操作、チャレンジなど、とても生徒の興味をかき立てる内容になっていて、読んでいてわかりやすく、家庭学習にもとても配慮のできた教科書のように思えます。

森井委員がおっしゃっていましたが、見た目の写真のきれいさや、目次の見やすさからいきますと、東京書籍が非常に見やすいのかもしれませんが。その辺は、どちらも見やすいけれども、強いて言うなら、東京書籍の方がよいかと感じております。

○阪本教育長

私は、大日本図書と学校図書ということで絞らせていただきます。大日本のほうは、天体や地層等、非常に引きつけられる写真があるということ。説明や文章量が二つとも多いんですが、そ

の文章の中身がとても優しく、丁寧だということです。ですから、子供がじっくり読めば理解でき、自学自習などに非常に期待が持てると。学校図書が、いかにも教科書という、典型的な教科書だとすると、ある点では、大日本のほうは参考書も不要というぐらいに、内容が非常に細かく振り分けてある。このことが逆に、最初から理科嫌いという子供にとっては、非常に負担感があるのかなとも思います。学校図書のほうは、その点では、いろいろな子供たちにとって使いやすいのかなということもあります。

そういう面で、二つの教科書を挙げましたが、今話題になっています原子力の利用ということでいきますと、大日本のほうは3ページほど使っています。これは原子力発電を推進するとか、推進しないとかではなく、核エネルギーの発電の仕組みを科学的にわかりやすく説明しており、原子力の利用の課題もはっきり示してあります。これは学校図書もそうなのですが、そういう面では科学的な思考ということで、どちらに偏ることなく取り上げて、そしてなおかつ、それをどう自分たちの世代で活用するかということまで、子供たちに問題提起をしているのはいいと思います。

大日本のほうは、「トピック」での説明がやっぱりいいと思いますし、安全面の配慮もあります。小学校との一貫性の問題も、非常に考えられているなど。それから、原発の話をしました。地震についても結構詳しく取り上げてあります。ですから、これをじっくり読み解けば、学力もかなり保証されるのではないかと考えております。

大日本と学校図書ということで、今日の段階では絞らせていただきます。

以上です。

○伊藤委員長

大日本図書と学校図書を、教育長が挙げられました。

私は、学校図書が妥当かと思っております。大日本図書も内容的にはいいと思っておりますが、皆様のご意見を伺えば何うほど迷ってきます。今、教育長から、大日本図書の中身が丁寧でよく書いてあり、じっくり読めばそれが理解できて力になるというご発言がありました。おっしゃるとおりかと思えます。

一方で、もちろん教育長ご発言の中にもあったかもしれませんが、それは裏返せば、じっくり読む意欲と力が必要とされる、あるいはその力がない生徒にとってはどうかということにもなるかと思ひまして、それが審議委員会の報告の「全体的に細かく丁寧に書かれているが、文章量が多い、理科が苦手な生徒には難しく感じると思われる。」ということにつながるのかと思ひます。

学校図書は、その点、大日本図書と対照的であり、非常に簡潔な書き方をしてあります。ですから、基礎・基本を学ぶという意味で、それから授業で使っていくということで、私としては、むしろ使いやすいかという印象を持ち、考えた次第です。

それと、大日本図書のほうは、発展内容を「トピック」といったような取り上げ方をしているんですけども、学校図書のほうは発展なら発展と、このように明らかに発展というふうを書いてありました。また「チャレンジ」、それから「科学の窓」といったこととか、キャリア教育に

つながるような「どんな仕事？」というページもございまして、教科書のそれぞれの内容が、これは何というふうに、明らかにされているところがわかりやすいと思います。細かい点で言えば、周期表などの見やすさも、学校図書が一番見やすいと私自身は感じました。

荒畑委員が、特に大日本図書について指摘して下さった点が8点あったかと思えますけれども、その項目は、ほとんど今上がっております東京書籍、学校図書、大日本図書、3者ともに通じていることだと思います。細かく言えば、インデックスについては、大日本図書だけとなりますが、あとの部分は、ほぼどれも網羅しているのではないかと思います。ですから、あとは、それぞれの良さがございまして、どの教科書が、小平市の中学校の理科の授業に適するかということが、課題になってくるかと思えます。

荒畑委員が7点目に挙げられたのが、先ほど私も申し上げましたが、大日本図書について審議委員会からの所見に書かれていた、文書量が多くて難しく感じるという部分であったかと思えます。それから、東京書籍に関しては全般的には読みやすく理解しやすい、グラフや写真が鮮明で見やすい。しかしこれは、山田委員おっしゃるように、ほかにも通じていることかと思えます。ただ、東京書籍は一部、公式のページや説明に丁寧さを欠く部分があるということがありました。それから、二分野の記述内容や配列に配慮が不足する部分があるということですが、ここを事務局のほうにご質問させていただいていいでしょうか。この記述内容や配列に配慮が不足する部分があるというのは、どの部分でしょうか。総合的な所見にしては随分具体的に挙げておりますので。

○内野教育部理事

この、記述内容や配列に配慮が不足する部分といたしましては、配列として天体に関する内容の部分でございまして。これについては東京書籍は銀河系から始まっておりますが、太陽系から銀河系という、近いほうから遠いほうという流れが好ましいという考え方もございまして。

記述の内容といたしましては、銀河系についての記述が少ないということが東京書籍のところでは言えるかと思えます。

以上でございまして。

○伊藤委員長

ありがとうございます。

それから、学校図書に関しましては、審議委員会の報告ではあまりマイナスな部分は挙げられておりません。最後の文言としては、「どの生徒にも使いやすくと考える」というふうに書かれております。こういったところも参考にしまして、もう少し検討をいただくことにいたしましう。

ご発言ほかにございましょうか。

ーなしの声ありー

○伊藤委員長

では、理科に関しましては、挙がってきた3者をさらに検討するということにいたしまして、理科の議案候補といたしましては、発行者名、東京書籍「新しい科学」、大日本図書「理科の世界」、学校図書「中学校科学」が妥当かと存じますが、いかがでございましょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、次に音楽に移ります。

音楽の主な改訂ポイントについて、事務局よりご説明をお願いします。

○内野教育部理事

教科、音楽につきましては、一般と器楽合奏の種目がございまして、それぞれの種目ごとに教科用図書の採択を行います。改訂のポイントにつきましては同様でございますので、一括してご説明したいと思います。

音楽の改訂のポイントといたしましては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり、味わって聞いたりという力を育成すること。音楽と生活とのかかわりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度の育成を重視するよう改訂が図られました。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、主な改訂内容についてお願いいたします。

○内野教育部理事

この点については7点ございまして、一つ目から申し上げますと、音楽文化についての理解を深めること、伝統的な歌唱を取り扱うこと、創作において音を音楽へと構成していく体験の重視、鑑賞において根拠をもって批評すること、歌唱共通教材の各学年1曲以上の必修化、共通事項の新設、内容構成の改善、以上7点でございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

音楽における言語活動についてもご説明をお願いいたします。

○内野教育部理事

音楽におけます言語活動といたしまして、例えば鑑賞において音楽を形づくっている要素や構

造と曲想とのかかわりを理解して聞き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうことや、またグループによる創作活動を行う際に音のつながり方などの工夫や表現意図を生徒同士が話し合うなどの学習活動がございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、音楽一般の協議に入ります。音楽一般につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学音楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「中学生の音楽」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがでございますか。

○山田委員

教育出版と教育芸術社2者を拝見させていただきまして、そして同時に審議会調査報告書も見せていただいた結果、私は教育芸術社の教科書の内容がいいと思っております。

まず1点目、教育出版のほうの挿絵では、まず見開きのページでピアニストのフジコ・ヘミング氏に焦点を当て、そのピアニストのプロの言葉と、そしてプロフィール的なフジコ・ヘミング氏の人生、こういった歩みを紹介し、生徒たちがこの人物に興味を持てるような、要は音楽を好きになるきっかけ、そういうような位置づけにしているんだと思います。一方、教育芸術社も民謡歌手の伊藤多喜雄氏を取り上げていまして、歌うこととは自分らしさを表現する一つ的手段として心イコール思い、思いを伝えることの大切さを生徒に訴える。この人物がどんな音楽を奏でるのかなと、まずは興味を持たせることで、そして聞いてみたいと思わせることができる。そういうような観点では、両方ともいいと思っております。

続いて2点目。例えば1年生の教科書で見比べますと、教育出版は合唱曲の全21曲中4曲がピアノの伴奏でございます。また、11曲はコードネームがついてございます。一方、教育芸術社は全18曲のうちの6曲がピアノ伴奏となっております。教育芸術社のほうがピアノの伴奏付きの曲が多いということは評価の対象となるかと思いますが、要素に応じては、この教育出版のコードネームも今後良いのではないかと感じております。

3点目におきまして、教育出版の1年生の教科書で説明しますと、6、7ページで「Let's Sing!」という項目で歌うための準備として発声について触れております。ところが、説明が生徒にとって十分伝わるか若干疑問に感じております。かえって歌うことが難しくなってしまうと思います。よく私が学生のころにも言われていたことではありますし、視線の向きだとか肩の力を抜いてとか胸を広げてとか重心は前のほうにとか、こんなようなことは確かに私の学生のころもあったかと思えます。

そして、2・3年生の8、9ページの「Let's Sing!」では、歌詞から作詞者の思いを感じ取って歌わせようとしている点はよいと思いますが、その先の指導までには至らないのかなと。そ

これは指導者によるかもしれませんが、この教科書だけでいくとそういうふう感じております。

また、声の響きを集める場所や息の流れを意識させる項目もありますが、これは例えば声楽家の先生が歌って見せれば、生徒にとって非常に歌いやすいのかもしれませんが、そうではない出身の先生ですと生徒がイメージしようにも容易にできるものではないのかなと感じました。

一方、教育芸術社の1年生の8、9ページ、そして17ページ、41ページに「My Voice!」というのが三つに分けてございます。そちらも発声についてのページということで設けてありますが、導入としては呼吸から入り、そして、あえて歌うときの姿勢も悪い姿勢のみを記載している点は、そこを注意するのみで、ほかの部分に自由度を与えているように感じました。要は歌うときのフォームについてあれこれ言い過ぎますと余計な部分に力が入ったりして、かえって歌いづらくなるというふうに私も思いますので、悪い部分だけを伝えるのがいいのかなというふうに思っています。

続いて、17ページの「My Voice! 2」のほうでは、歌のフォームにとらわれず耳から聞こえたものをまねてみようという方向性です。それがとてもよく、つまり物まねをすることで体の使い方とか声の出し方の理想に近づくのかと思います。

そして、最後に41ページの「My Voice! 3」のほうでも、まずその気持ちになって声を出してみようという、こちらと同じくもっていき方がいいかと。声というものは感情がそのまま声の音色を形成し、コントロールしているので、やはりそういうほうがいいのかと思います。

ちなみに、2・3年生の上の教科書では、11ページの「気持ちを声にあらわそう」というところで1年の教科書にあったように感情が声の音色に変化をもたらすことを、25ページでは3大テノールの声を聞き比べてみる。聞いて耳から聞こえたものをまねようとか、こういった方向性ですね。そういう部分では生徒たちに気持ちから入ってもらおうという方向性が非常にいいと思いました。

以上、細かい部分にも触れましたが、総合的にも内容的にも教育出版と教育芸術社でいくと、教育芸術社のほうがなれ親しんでいる曲もやはり多く、こういったことも含め、教育芸術社の教科書がいいと思いました。

以上でございます。

○伊藤委員長

ほかの皆さんはいかがでございますか。

では、今、大分詳しくご指摘いただきましたが、国歌についての扱いですけれども、教育出版のほうは「君が代」とありまして、その下に「国歌」というふうになっております。

教育芸術社のほうは、「国家」と先にあり、歌詞も非常に大事に書かれて、わかりやすく大きく書かれている。それは1におきましても、2・3におきましても同じです。「君が代」が先で「国歌」とくるのではなくて、国歌が「君が代」なわけですから、こういった国歌の扱いに関しましても教育芸術社の扱いが妥当かと思われま。

皆様ほかにご意見ございますか。2者ですので、比べてどちらかということになるわけですが

れども。

それでは、教育出版がよろしいというご意見はございますか。

ーなしの声ありー

○伊藤委員長

では、皆様、教育芸術社でよろしゅうございますでしょうか。

それでは、委員の皆様の総意ということで、音楽一般の議案候補といたしましては、教育芸術社「中学生の音楽」が妥当かと存じます。いかがでございますか。

ー了解の意思表示ありー

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、音楽・器楽合奏の協議に入ります。器楽合奏につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、教育出版が「中学器楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「中学生の器楽」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと存じます。いかがでございましょうか。

○山田委員

器楽もやはり審議会調査報告書の点も踏まえたうえで、総合的に教育芸術社がいいと思っております。教育出版ではジャンルに沿った音楽が若干取り上げられてはおりますが、生徒にとってなじみのある曲が少なく感じます。一方、教育芸術社は、生徒が関心を持てるような曲が多く、発達段階に即した、そういった選曲がされているのではないかと感じました。ということで、総合的な判断もございまして教育芸術社が妥当かと思えます。

以上です。

○伊藤委員長

そうですね。私も教育芸術社のものいいと思いますが、審議委員会の調査報告といたしまして、教育出版のほうは説明文が多い、もう少し簡潔なほうがいい、和楽器の写真が小さく、やや不鮮明であるという指摘がございます。

教育芸術社のほうに関しましては、そのような改善を希望するような指摘はございませんね。全体にわかりやすく、取り扱いやすい内容構成となっている、そういう総合的な所見でございます。

皆様いかがでございますか。

○森井委員

私も総合的に判断いたしまして、教育芸術社の器楽の教科書がいいと思います。

まず、最初にアルトリコーダーを取り扱っているということで、運指表などについても丁寧に描かれていると思いますので、生徒の器楽の教科書としては教育芸術社のものがいいと感じました。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございますか。

○山田委員

すみません、もう一点あるのですけれども、これも教科書のつくりの問題なのですが、なるほどなと思ったのですけれども、楽譜は上側で置くものですね。教育芸術社の方のぱっと開いて戻りづらい教科書のつくり方が良いと感じます。

一方、教育出版のほうは、手でかたどらないと閉じてしまう。そういったつくりも選定のポイントの一つになるかとも思いました。

○伊藤委員長

紙質やとじ方、そして量、ページ数からというものかとも思いますけれども。

ほかにご発言がなければ、教育芸術社ということで一致していると受け取ってよろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、音楽・器楽合奏の議案候補といたしましては、発行者名、教育芸術社「中学生の器楽」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、美術に移ります。

美術の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

美術の改訂のポイントでございますが、創造することの楽しさを感じるとともに思考、判断し、

表現するなどの造形的な創作活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくんでいくことが重視されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、主な改訂内容についてお願いいたします。

○内野教育部理事

そのことにつきましては5点ございまして、一つ目から申し上げますと美術の生活化、実生活で生きて働く美術の確かな能力の定着、発想・構想の能力の育成の重視、美術文化の理解に関する鑑賞教育の重視、共通事項の新設。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、美術における言語活動については、どのような内容なのでしょうか。

○内野教育部理事

美術における言語活動といたしましては、例えば作品等に対する思いや考えを説明し合ったり、批評し合ったりする学習活動などがございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、美術の協議に入ります。美術につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、開隆堂出版が「美術」、光村図書出版が「美術」、日本文教出版が「美術」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。いかがでしょう。

○荒畑委員

美術について3者から検討いたしまして、開隆堂と光村図書の2者を候補に挙げたいと思います。その理由について申し上げます。

まず、開隆堂でございますけれども、まず第1点が大きさや形、重さが生徒の学習活動に大変適しているということ。それから第二学年及び第三学年が1冊にしてあり、表現と鑑賞の深まりが期待できるということです。2冊準備することがないので利便性が期待でき、実践内容を考えさせることができるタイトルが用いられているということで、美術2・3が1冊になっていると

ころは大変見やすいところだと思います。

2点目としまして、見開きに迫力があり、効果的であるということです。それから、ページの下のほうに関連ページのリンクが示されておりまして、内容の理解に広がりを持たせるような配慮がされているというところ。

3点目といたしましては、生徒作品の説明があり、わかりやすい。また、生徒作品が多く取り上げられているために授業の流れが作りやすく、実際に取り組む際の発想の広がりにも深みを持たせることが期待できるということです。

4点目としまして、題材の分野、内容がページの左端において色分けされており、大変わかりやすいということと、作品の数が多く、情報が多いところが大変よいと思います。

5点目といたしましては、「暮らしや生活の中にある美術」というタイトルで美術の力を生かして社会で働く先輩たちの話を読みながら、美術の学習を通して身につけたさまざまな力をこれからの生活の中で生かすことの大切さについて考えてみるコーナーがあるというところは、生徒の興味を示すという点では非常にいいと思います。

6点目といたしまして、新学習指導要領の伝統文化の重視に準拠しており、掛け軸や落款、扇面、着物や和菓子のデザインが取り上げられている点、またさまざまな伝統文化、地域社会とのかかわりが記されている点は大変よいと思います。

以上から、開隆堂の美術の教科書がいいと思います。

もう一つ、光村図書でございますが、こちらは題材名の横に目標が提示してありまして、生徒にとっては大変わかりやすいという点がいいと思います。また、見開きで大きく図版を掲載し、鑑賞活動において深く観察することができ、美術の楽しさを生徒に伝えやすい内容になっている点がいいと思います。また、生徒の作品が多数載せられておりますけれども、発達段階に応じて創作意欲を引き出すことができ、作者の言葉がそれぞれ書かれているところも生徒の興味を引くところで、学習意欲を上げるのにいいと思います。また、3冊になっておりますけれども、美術の1、2・3上、2・3下、それぞれ美術の扉、美術の広がり、美術の力として、それぞれ内容がバラエティに富んでおり、非常に関心を引くところがございます。それから、写真や絵がきれいで表現を訴えるような教科書という点では光村図書がすばらしいと思います。非常に色彩感覚とか、中学生でなくても持ちたいというような感じを持たせていただく教科書ではないかなと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございませんか。

ただいま開隆堂と光村図書がよろしいというご発言でした。

○森井委員

私は光村図書の教科書がいいと思いました。まず最初に教科書を開いたときに谷川俊太郎の

「うつくしい！」という詩が、3冊の教科書にわたって示されており、内容、色ともに本当に美しい教科書だと感じました。美術の教科書では一番大切なことなのではないかと私は思います。大きさも十分ありますし、きれいであることから、生徒へのインパクトも強く、生徒作品が多数掲載されていることで生徒の興味関心を高める工夫がなされていると思います。美術作品に関連した詩が載せられていること、また視覚的に訴える工夫や単元のねらいが明確なことから美術における言語活動を充実させる内容であると思います。

以上の点から、私は光村図書の美術の教科書が妥当であると考えます。

○伊藤委員長

ただいま森井委員から光村図書を妥当とするご発言がございました。

○山田委員

美術は、私もやはり光村図書が非常にいいと思っております。

まずは、何といたっても見開きの大胆な写真と文字の構図、レイアウトと、非常にデザイン性にすぐれた、見た目だけではなく文字・文章だけでもデザイン的に完成された心に響くような工夫がとても素晴らしい。手元に置いておきたいと感じております。

また、生徒の作品もたくさん載せられておまして、同じく学ぶ生徒にとっても同世代の作品として、とても身近に美術を感じることができ、美術というものに大変興味を持てる工夫の一つだと思います。

いずれにせよ、とても使ってみたい、持っていたいというような教科書だと思っております。

以上です。

○阪本教育長

私も光村図書かと思っております。導入のよさもありますが、視覚的に訴えるイメージが本当に多いということです。その点では昔の教科書というのは小さな写真で、それでいい作品だろうというような感触を感じたわけですけど、このピカソのゲルニカも大きいですし、いいなと思ったのはゲルニカを制作中のパブロ・ピカソの真剣な写真が、作品以上に私は中学生の心をとらえるのではないかと思います。また1年生の最初に、シャガールが制作しているところがありますが、強制的ではなく、何とかシャガールの絵のよさをとらえようという意図が伝わってきます。そういうのがとてもいいかと思っております。

また、単元のねらいが明確に設定されているというようなこともありますので、私は光村図書のほうがいいのかと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

光村図書をというご発言が続きました。私も光村図書の教科書が妥当かと思っております。

先ほどから私どもが手元に置きたいようなというご発言もありましたが、教科書というのは大人が読んで、大人が手にして、いいと思うものと、現場で教える、生徒が学習するのに適するものが必ずしも一致しないということもございます。しかしながら、この光村図書の教科書に関しては、まさに生涯にわたって印象に残る学習をすることができるのではないかとというような教科書に感じます。

先ほどの学習指導要領改訂のポイントに、美術文化に関心を持って生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことが重視されているとございましたけれども、多くの人は制作者というよりも鑑賞者になっていくわけですね。そして、音楽もしかりですが、美術もこのグローバルな世界にあって、美術に対して深く知識を持っていなくても美術の教科書で習ったな、美術の授業で習ったなということがその後の教養となっていき、海外の人と接するときにも海外を訪れたときにも非常に豊かな素地となることと思います。そういう意味でも、作品がしっかりと提示されていることにおいて光村図書はすぐれていると思います。

個々に挙げている時間はありませんが、開隆堂も作品をいろいろと挙げておりますけれども、いっそもう少し大きくしたらいいというのが結構ございます。例えばこういったページです。それから、この作品はちょうど今、国立近代美術館に出ておりますけれども、もっと大きく見たときに全然印象が違ってきます。だからせめて、こう申してはなんですが、光村図書のように見開きいっぱい、縦横いっぱいのもにしてもよかったのではないかと、ちょっと大きさにおいて残念な気がいたします。その点に関しまして、光村図書の金屏風の風神雷神が広がるこのページは、まさにすばらしいページで皆さん感動したと思います。

それからあちこち発言が飛んでしまって恐縮ですが、開隆堂では、このように下に何ページに戻って参考にしましょうということが結構あるのですけれども、それが一部、間違いがある部分もございます。それから、そうやってページを戻っての学習というのは、なかなか散漫になる傾向もあるのではないかと思います。

最後に、何といたっても光村図書の教科書がすぐれているのは言語活動だと思います。今回の学習指導要領改訂、全教科において言語活動が重視されておりますが、まさに生徒作品、先ほど教育長がおっしゃったピカソについてもそうですが、そういった意味での読み物としてもすぐれていること。それから、その作品に対する鑑賞というのは、感情を頭の中で言葉にし、あるいはそれをまた文章に表現していくわけですから、言語活動というのは非常に重要だと思います。その意味で生徒作品がいくつか載っていますが、荒畑委員も指摘されたように生徒作品のところに作者の言葉というのがあります、それがなかなか読ませる内容です。そういったところを読むことで、それがインプットとなって生徒は今度自分が鑑賞したときにそれを作品なり文章なりでアウトプットしていくことになるのではないかと。言語活動を促すという意味で非常にすぐれていると考えます。

先ほど荒畑委員が開隆堂も挙げておられましたが、光村図書も妥当とおっしゃっておられました。美術に関しましてはいかがいたしましょうか。

○荒畑委員

私も先ほど開隆堂、それから光村図書と申しあげましたけれども、色彩的な面、また生徒の興味を持つ点では光村図書の方がいいのではないかと思っております。一長一短があるのでいろいろ申しあげましたけれども、光村図書でも異議はございません。

○伊藤委員長

光村図書というご発言がございましたが、どうでしょうか。

それでは、荒畑委員の今のご発言もございましたので、委員の皆様のご意見を集約しまして、美術の議案候補といたしましては、発行者名、光村図書出版「美術」を妥当としたいと存じますが、いかがでございましょうか。よろしいですか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

では、次に保健体育に移ります。

保健体育の主な改訂ポイントについて、事務局よりご説明願います。

○内野教育部理事

保健体育の改訂のポイントについて、3点ご説明いたします。

発達段階に応じた指導内容の明確化、体系化、第一学年及び第二学年での武道・ダンスを含めたすべての運動領域の必修化、自然災害を伴う傷害の防止や医薬品についての指導の充実でございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、保健体育における言語活動についてご説明いただきます。

○内野教育部理事

保健体育での言語活動といたしましては、創作ダンスの練習の際に表現したイメージを一度言葉に置きかえたり、仲間の動きの課題解決に向け、助言したりするなどの学習活動がございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、保健体育の協議に入ります。保健体育につきましては、発行者4者から見本本の提

出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい保健体育」、大日本図書が「中学校保健体育」、大修館書店が「保健体育」、学研教育みらいが「中学保健体育」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと存じます。いかがでございますか。

○荒畑委員

保健体育について申し上げたいと思います。4者ございますが、私としましては東京書籍と学研教育みらいの2者を推したいと思います。

その理由につきまして申し上げます。まず、東京書籍につきましては、保健体育のそれぞれの章に学習のまとめがございまして、章末資料が豊富にあり、学習しやすいというふうに感じられます。また、分析したり、活用したりといった学習内容が組み込まれていることもいいのではないかと思います。

また2点目といたしましては、書き込み式の部分があり、ノートとしても活用でき、学習が効果的に進められるような配慮や工夫がされていることがよろしいと思います。

3点目としましては、70ページに実習資料としてAEDのことが大変詳しく書いてあるのは、大変よろしいことではないかと思います。

4点目といたしまして、口絵とか挿絵が工夫されており、図や写真が大変多く、興味を引くという点でいいのではないかと思います。

全体的に見やすく、読みやすく、わかりやすくまとめられております。

そして、6点目になりますが、キーワードの解説とか索引、また筋肉、骨格、内臓の挿絵が巻末についていたり、大変多くの資料があって興味・関心を高めるものだと思います。特に筋肉、骨格、内臓の挿絵が、大変詳しく書いてある点が他者よりもいいと思います。

そのような点で東京書籍を、推したいと思います。

もう一者が学研教育みらいでございますけれども、文字の大きさや表現などもわかりやすくまとめられております点。またポイントになる言葉が太字で表記されているので、大変わかりやすく学習しやすいという点。それから、中学生の実情に応じた問題にたくさん触れておられる点がいいのではないかと思います。4点目としまして、スペースの活用、図式とかイラストが大変洗練されておりまして、スペースの活用の仕方が大変うまくできている点。5点目としまして、文章と資料が適当に配置されて大変使いやすいという点です。6点目といたしまして、喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけに対する対策が取り上げられている点がいいと思います。3ページにわたって詳しく書かれている点は、中学生の思春期には非常にいい保健体育の内容ではないかと思います。

以上2者を、私のほうとして取り上げさせていただきたいと思います。

以上です。

○伊藤委員長

東京書籍と学研教育みらいが挙げられました。いかがでございますか。

○山田委員

私も、この4者から挙げますと学研教育みらいがいいと思っております。まずはコラムがところどころに掲載されておりまして、一口メモのように要約されている点。生徒にとって、関連したもう一歩先を考えることができるような工夫がされているというふうに感じました。

そして、またこの教科書は審議会調査報告書にもありまして、薬物の問題が充実し、確かに工夫もしてありまして、全体的にデータの範囲が広いのかなど。またレイアウトや字も、学研教育みらいのほうが東京書籍と比べますと見やすいと感じております。

以上から、私は総合的にも学研教育みらいがいいかと思いました。

以上です。

○森井委員

私も4者を見させていただいた中で学研教育みらいの教科書がいいと思います。新学習指導要領改訂のポイントで挙げられました自然災害に伴う傷害の防止や医療品についての指導の充実においては、東京都教育委員会の教科書調査研究資料277ページを見ますと、各者それぞれほとんど同じぐらいの分量で埋められておりますが、学研教育みらいは薬物乱用防止についての内容を多く取り上げられており、これは同じ学研教育みらいの小学校の教科書でも同じことが言えることから、小・中連携で取り組まなければならない内容であるとの考えが一貫しているということが伺えます。教科書全体を通して文字が大変大きくわかりやすく、説明文が簡潔で理解しやすいものになっていること、また、例えば62ページの実習の部分で他者でも取り上げられておりますが、応急手当の流れと図がわかりやすい、また挿絵で説明されているなど、生徒が目で見えてわかりやすい内容であると思います。その他、総合的に判断して、学研教育みらいの教科書が妥当なのではないかと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

学研教育みらいというご意見がございました。

○阪本教育長

学研教育みらいですが、これは小平市の場合は、お薬教育、お薬の正しい使い方を小学校、中学校で、学校薬剤師の方々の協力を得てやっておりますし、また薬物乱用防止のほうも10年以上にわたって地域の方も含めた取り組みをやっております。そういう面では、今日の大きな課題を学研教育みらいのほうはちゃんと取り上げているのかなど。それから、表現が短くて簡潔であるというようなことも大きいのかなどと思います。それと、保健分野とのバランスもいいと思います。ほかの教科書もそうですが、救急法につきましては人工呼吸を2回やると載っていますが、

現実的には今、人工呼吸をやらなくて圧迫法だけでいいというような指導も受けているところですので、これは使うほうの側として最新のものを取り入れていただきたいなと思っております。

いずれにしましても、学研教育みらいかと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

学研教育みらいというご発言が相次ぎました。

私もすべての教科書を比較いたしました。東京書籍が学研教育みらいというふうに絞り込みまして、最終的に学研教育みらいがいいと思っております。

その理由は、まず皆様のおっしゃった理由はもちろんです。つけ加えますと、使われているデータ、グラフと文章が学研教育みらいは一致しております。それが随所に見られます。例えば40ページ、41ページの「し尿・生活排水の処理」に、このように資料のレイアウトが非常に明確なのですが、東京書籍はこのようになっております。それで、こちらは例えば下水道の普及率、人口何万人に対してというのが載っております。東京書籍は普及率の変化というふうにあります。その普及率の変化というグラフを示していて、その文章の末尾には人口が少ない山間部のようなところは下水道整備が困難なので合併処理浄化槽整備が進められております。その文章の最後のほうは、この2者は同じですが、それならやはり人口比のグラフが必要なわけですので、そういった不一致、不一致まではいかないのですけれども、適切さという意味で学研教育みらいはどのページ、どの単元を見ても理にかなって、非常にすぐれていると思います。

それから、飲酒と健康に関する単元におきましても、東京書籍はこのようにどれだけ飲んだらどうなるか、例えばビール1本で壮快期、2本でほろ酔い期、3本で酩酊初期とか、中学生がアルコール、飲酒のある意味危険性を学ぶのに、こういう名称を学ぶよりも学研教育みらいにございますように、血中アルコール濃度によって脳がどういう状態になるか、こういうことを明確に学ぶほうが有意義ではないかと思えます。

それから、体育に関してのご発言があまりなかったかと存じますが、体育編のほうで学研教育みらいには、スポーツ振興法も資料として載せられていまして、体育で学習するスポーツについて、その意味がよくわかるように示されています。そのあたり、東京書籍のほうは少し明解ではないように存じます。

以上の理由から私も学研教育みらいを議案候補として挙げたいと存じます。いかがでしょうか。荒畑委員が東京書籍と学研教育みらいを挙げていらっしゃいましたが、いかがでございましょう。

これも美術のときと同じで、全員が学研教育みらいがよろしいという意見では一致してはおりませんが。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、皆様のご意見から保健体育の議案候補といたしましては、発行者名、学研教育みらい「中学保健体育」が妥当かと存じますが、いかがでございますか。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、技術・家庭に移ります。

最初に、技術の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

それでは、技術分野のほうについてご説明いたします。

ものづくりを支える能力を一層高めることや、技術を適切に評価し、活用できる能力と実践的な態度を育成することを特に重視するとともに、社会の変化に対応して持続可能な社会の構築や勤労観、職業観の育成を目指し、技術と社会、環境とのかかわり、エネルギーや生物に関する内容の改善・充実、また安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導の充実を図ることでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、主な改訂の内容についてお願いします。

○内野教育部理事

3点ございまして、1点目は材料と加工に関する技術、エネルギー変化に関する技術、生物育成に関する技術、情報に関する技術、四つの内容の必修化です。2点目は、ガイダンス的な内容の設定。3点目は、各内容、「知る」、「作る」、「評価し活用する」で同一構成であるということでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、技術における言語活動にはどのような内容がございますか。

○内野教育部理事

技術分野における言語活動といたしましては、情報ネットワークや情報の特性を生かして考え

を伝え合ったり、設計図やフローチャート等を用いて考えたり、説明をしたりする学習活動などがございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、技術の協議に入ります。技術につきまして、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい技術・家庭 技術分野」、教育図書が「技術・家庭 技術分野」、開隆堂出版が「技術・家庭（技術分野）」となっております。

それでは、皆様、ご発言を願います。

○森井委員

技術の教科書3者を読ませていただきまして、その中で東京書籍のものがいいと思いました。中学校に入って初めて学ぶ生徒にとって、まず最初の導入部分で技術を習得することの意義や、それを実生活で役立てることの大事さについて触れていること、また学習の目標がしっかり提示されていることがすばらしいと思いました。

内容につきましても、安全面を十分配慮した上での作業の仕方や製図の方法などの説明もわかりやすく示されています。また、单元ごとの学習のまとめが充実していて、授業の振り返りに役立つこと、実習例が多く、活用するヒントになることなど、技術教科の基礎基本をしっかり押さえた上での活用をするのによい教科書だと思いました。

審議委員会からも、資料が多く参考になる、また全体的にバランスよくまとめられているとの報告もあり、中学校の技術教科書としてはよいものではないかと考えます。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにいかがでございますか。

○山田委員

私も3者を拝見させていただきまして、東京書籍の教科書がよいというふうに思いました。基礎的な技能の写真、例えば74ページですけれども、こういった写真説明がとてもわかりやすいと感じます。そして、見やすい。そして、この東京書籍の特徴として、各章の始めに生徒が興味を持てるような大きな写真が掲載されている。またリンクや一口メモといったものは生徒にとって基礎基本、さらには発展した学習の習得にも非常に役立つ内容になっているのではないかと考えています。レイアウト的にも、文字や写真などの全体のバランスがほかと比べると非常にまとまっていて、わかりやすいのかなと感じました。

以上です。

○荒畑委員

私も東京書籍がよろしいのではないかと思います。今お二人が挙げておりましたけれども、表やイラスト、写真が多用されていて大変わかりやすく、キャラクターに鉄腕アトムがたびたび登場してポイントを示すので、大変わかりやすいと思いました。

それと、今、山田委員もおっしゃいましたけれども、本文の文字が大変大きく、見やすく、読みやすいという点も学習意欲を高める工夫がされているというところで非常によいことだと思います。

あと、文章、写真、図、イラストがバランスよく配置されているということ。それから資料が多く掲載されていて大変参考になるという、そういった点でやはり東京書籍がいいと思います。

以上です。

○阪本教育長

こういう実習を主体とするものは、やはり子どもたちが教科書を見ながら安全に配慮して自分で加工できること。それも予定された計画の時間内でちゃんと終わるということが、とても大事なことかと思えます。その意味では、東京書籍の教科書はそうした計画どおりの実践ができるものではないかと思っております。また、子どもたちもそれぞれ生活体験が違うのですが、その子どもたちにも理解しやすい、読みやすいという内容になっていると思えます。

先ほど委員さんからもありましたが、75ページの穴あけの様子ですとかヤスリがけというもの、一目でこうやっていいというポイントが押さえられて使いやすい。また、自分の作品が確実にでき上がり、それをまた生活とかに使用できるという期待を持たせる教科書だと思います。

以上です。

○伊藤委員長

私も東京書籍がよろしいと。皆さんがおっしゃるとおりでございます。

それでは、委員の皆様のご意見から技術の議案候補といたしましては、発行者名、東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野」が妥当かと存じます。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、家庭分野に移ります。

家庭の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

家庭分野についての改訂のポイントでございます。自己と家庭、家庭と社会のつながりを重視し、将来の見通しを持ってよりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成することでございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

それでは、主な改訂の内容についてお願いいたします。

○内野教育部理事

この点につきましては2点ございまして、1点目は内容構成の改善として、家族、家庭と子どもの成長、食生活と自立、衣生活、住生活と自立、身近な消費生活と環境の四つの内容で再構成されております。

2点目としましては、社会の変化への対応として、家族、家庭に関する教育の充実、食育の推進、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点の充実、生活文化の継承と発展の視点の重視。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、技術・家庭の家庭分野における言語活動はどのような内容でしょうか。

○内野教育部理事

家庭分野の言語活動といたしましては、実習等の結果を整理し、工作する学習活動や生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりする学習活動がございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、家庭の協議に入ります。家庭につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい技術・家庭 家庭分野」、教育図書が「技術・家庭 家庭分野」、開隆堂出版が「技術・家庭（家庭分野）」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと存じます。いかがでございますか。

○森井委員

こちらと同じく3者ということですが、読ませていただいた中で東京書籍がいいのではないかと

と思います。

まず、最初に家庭科を学ぶことの意義を提示しているということで、生徒にとってわかりやすい内容になっていると思います。基礎技能の部分では、写真を使ってわかりやすく見やすくまとめられており、基礎基本の定着に役立つ内容になっており、またその基礎技能を使った実習例があることで基本を振り返ることができるようになっています。

ほかにも実生活に役立つさまざまな知識、例えば魚の調理の中ではイワシの開き方の写真での説明、アイロンがけの基本的な手順や収納の方法、畳み方、しまい方、衣料のしみ抜きの方法など、実生活に役立つ知識がこの教科書には大変多く載せられているので、生徒自身も授業以外でも十分に使える内容になっていると思います。

審議委員会からの報告でも、文章、写真、図、イラストがバランスよく配置され、全体的に見やすいとされているように、生徒にとって大変よい教科書なのではないかと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ほかの皆様いかがでございますか。

○荒畑委員

私も3者から選ぶといたしまして、東京書籍がよろしいと思います。

その理由を申し上げます。まず第1点といたしまして、学習の冒頭に実習の安全として実習前、実習中、実習後の一般的な注意事項が記述してあり、調理や制作実習、幼児とのふれあい実習などにおける安全や衛生のポイントには安全マーク、衛生マークをつけて生徒への注意を喚起している点が非常にいいと思います。

2点目としましては、文章、写真、図、イラストがバランスよく配置されており、全体的に変見やすく、資料も多く、参考になると思います。全体的には大変バランスよくまとめられていると思います。

3点目としまして、必要に応じて振り仮名が振られているという点、それから重要な語句は文字色を変えられているという点、また本文の文字が大変大きく、読みやすく、学習意欲を高める工夫がされている点は生徒にとっていいのではないかと思います。

○伊藤委員長

東京書籍というご意見でございました。

○山田委員

私も同じく東京書籍の教科書がいいと思います。先ほどの技術のときと同じ発行者になりますが、やはり写真の使い方ですね。例えば58ページにハンバーグの調理実習のページがありますが、単純に料理の本として家のキッチンの横に置いておいても、教科書という域を超えて

いるとってよろしいのではないのでしょうか。こういったものが生徒にとって使いやすいものではないかと思っております。

以上でございます。

○伊藤委員長

後で振り返りができるということですね。

○阪本教育長

これも小学校、中学校の接続というものを考えていると思いますし、一番大切なのはやはりこの教科書、学校というよりは家庭において身近に置いておけば家族のために使えると。そして、自分の将来の自立に際しても使える。そして、なおかつ親となったときにも使えるぐらいの非常に幅広い分野が盛り込まれているなどと思います。そういう面では、私は東京書籍がいいと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

皆様のご意見同様に私も東京書籍がいいと思います。安全への配慮とか学習のまとめ、この学習のまとめが家庭学習及び言語活動を促すのに非常にすぐれていると思います。皆様一致しているということで、家庭の議案候補といたしましては、発行者名、東京書籍「新しい技術・家庭家庭分野」が妥当かと存じますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

次に、英語に移ります。

英語の主な改訂ポイントについて、事務局よりご説明よろしいでしょうか。

○内野教育部理事

外国語の新学習指導要領の改訂のポイントについてご説明いたします。

平成20年1月の中央教育審議会の答申を受け、主に四つの教育方針に基づいて改訂が図られました。1点目は、聞くこと、読むことを通じて知識等について話すこと、書くことを通じて発信することが可能となるよう4技能の総合的な育成のための指導の充実。2点目は、指導に基づく教材の題材や内容については基本技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善。3点目は、4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに文法指導を言語活動と一体化。4点目は、中学校での音声面での指導は小学校外国語活動を通してコ

コミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容を改善すること。

以上でございます。

○伊藤委員長

では、改訂内容についてお願いいたします。

○内野教育部理事

四つの技能のそれぞれについてご説明をいたします。

聞くことに関しましては、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

話すことに関しては、与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

読むことに関しては、話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

書くことに関しては、語と語のつながりに注意して正しく文を書くこと。身近な場面における出来事や体験したことなどについて自分の考えや気持ちなどを書くこと。自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるよう、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことがございます。

以上でございます。

○伊藤委員長

今の改訂内容についてのところに含まれるかもしれませんが、改訂のポイントの中で三つ目の文法指導を言語活動と一体化、四つ目の指導内容改善ということがございますが、これについてももう少しわかりやすくご説明いただければと思いますが。

○内野教育部理事

まず文法指導を言語活動と一体化ということは、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能の基礎を養うために単に外国語の文法規則や語彙などについて身につけさせるだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用できる能力の育成が重要であるために言語活動と関連させていくことが重要であります。

例えば新しく学習した文法規則を用いてスピーチ原稿を書いたり、スピーチを行ったり、また他者のスピーチ原稿を読んだり、スピーチを聞いたりする活動の充実を図ることで基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、さらに学習内容を深めることができるため、言語活動と一体化を図り、バランスよく計画的、系統的に行うことが求められていると言えると思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、英語の協議に入ります。英語につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「NEW HORIZON」、開隆堂出版が「SUNSHINE」、学校図書が「TOTAL ENGLISH」、三省堂が「NEW CROWN」、教育出版が「ONE WORLD」、光村図書出版が「COLUMBUS 21」となっております。

それでは、皆様のご意見を伺いたいと思います。ご発言をお願いいたします。いかがでございますか。

今回、私から発言しましょうか。東京都教育委員会の調査資料からしますと、三省堂が読むことが一番多くございまして、一時オーラルなやりとりが非常に重要視されましたが、やはりインプット、英文をたくさん読むということも重要かと思えます。そういう意味で、この三省堂の読むことが多いということも評価できると思えます。

それから、今の理事のご説明とも通じることと思いますが、今、小学校で外国語活動として英語のゲームや、ある程度の会話とかしてきているわけですね。ですので、それを踏まえた上で、ということが必要になるかと思えます。各者もちろんそれぞれ工夫をしております、導入に評価できるものはございます。東京書籍、開隆堂、三省堂はそういった意味で評価できると思えます。

それから、東京書籍はその後、リスニングにさらに重きを置いていることが非常によろしいかと思えます。開隆堂はリスニング、トーキングが多いのですけれども、その分と申しましょうか、読み物が少々少ないように思えます。開隆堂につきましては、1年生では「おぼえよう！」という文章のモデルとなるような文章が囲み付きでございまして、それが2年、3年となると「Basic Dialog」となっていきます。それを確実に覚えていったら大変な力になって表現力がつくということで、この部分は評価できるのではないかと思います。

それから、家庭学習につきましてはどの教科書もよく対応しているように思いますが、単元の組立てが三省堂は非常にわかりやすくなっておりまして、自分で予習・復習をしていくのにやりやすい教科書ではないかという印象を持ちました。「Mini-project」として1年生では自己紹介をしようというといった丁寧な単元もあります。

それから文法を教える順序について、複数形、三人称単数、現在とか、その順序が多少、出版者によって違うのですけれども、やはり「NEW CROWN」のほうがそのあたりは教えやすい、習いやすいということにつながるのではないかと思います。三省堂は「文法の要点」ということが2ページにわたって各レッスンにあり、わかりやすくなっています。現在完了に関しまして、特に東京書籍では受け身と完了形が一緒のところがあり、これは審議委員会の報告にもあるのですけれども、それが三省堂では非常に丁寧に扱われているということが評価できると思えます。文法のところでも単に文法を覚えるというのではなく、活用面にも力が入れていると思えます。

そういったことを総合いたしまして、英語の教科書として、小平市が使っていくのには三省堂がよいというふうに考えております。

ちょっとつけ加えますが、1年生の最初の「アルファベットと発音」というところでは、開隆堂のフォニックスを意識したこのページが、既に発音とかをやっている子どもたちにとって

はさらに興味がわく、一つの子音をどう発音するか、そういうことに興味を持つ上で非常にすぐれていると私は思いました。どれも一長一短でございますけれども、特に学年が進むに従っての構成なども考えまして三省堂がいいと考えました。

皆様いかがでございますか。

○森井委員

私も三省堂の教科書もすばらしいと思いますが、東京書籍の「NEW HORIZON」もいいのではないかと思いました。各者とも先ほど改訂内容で述べられた4技能のバランスがよく、内容が工夫されていると思いますが、東京書籍の中1の「Warm-up」では「あいさつ」と「教室で使う英語」など、小学校での外国語活動で生徒が既に触れている部分から入ることで、生徒に無理なく英語に親しんでもらうという姿勢が伺えます。また、コミュニケーションの大切さも学べる導入になっているのではないかと思います。また、生徒の身近な題材ということで映画や題名などを取り上げることで生徒の興味関心を引くように工夫されている点もいいと思います。

文法事項については、まとめと練習でわかりやすく説明されており、練習問題や学年ごとに基本本文プラス基本表現一覧が掲載されていることで家庭学習や繰り返しの学習に有効で、基礎基本の習得に役立つと思います。

ただ、学年が上がってきたときに内容的に少し易しいのかなとは思いますが、1年生の導入の部分のことを考えると、私は東京書籍の教科書がいいと思います。

○伊藤委員長

ほかにございますか。

○山田委員

私は、三省堂の教科書がいいかと思っております。こちらの審議会調査報告書を参考にしながら確認させていただいたのですが、4技能であります聞く、話す、読む、書くのバランスというものを生徒の創造的な育成の言語活動としてすぐれているのではないかとそのように感じました。

そして、内容の題材も、とても身近なものなどが幅広く取り上げられています。あと、なるほどと思ったのは、文字のフォントですね。この三省堂の教科書は大体がブロック体でまとまっております、全体のほかの教科書でもブロック体でまとまっている教科書もあるのですが、これはやはり見やすいと感じました。この三省堂の全体の落ちついたカラーなども含めると、外国語が好きになるきっかけの一つとしては、こういった使いやすさ、見やすさというものも大切な要素ではないかと感じました。

以上です。

○荒畑委員

私は東京書籍がよろしいと思います。第1点目としましては、学習指導要領に基づいて4技能

の聞く、話す、読む、書くのバランスがとてもよく工夫されているのではないかと思います。

それから、もう一点としまして、映画やアニメのような生徒の身近な題材を取り上げて、生徒の興味・関心を引くような内容になっているという点もよいかと思います。

以上です。

○阪本教育長

三省堂と東京書籍で私も考えているのですが、東京書籍はよくできている教科書だと思います。しかし、ちょっと教材研究や授業時間のこともありますので、いろいろな魅力という面では三省堂が勝っていると思います。特に長所というのは、キング牧師の演説ですが、平和、人権、生命というようなことを、英語を通して考えさせてくれるかなと思います。また三省堂の見開きに1年は「学び」、2年は「かかわり」、3年は「ことば」ということで、全学年を通して「地球という舞台で学ぶことは可能性を広げること かかわることは認め合うこと ことばを使うことは思いを伝えること」という、しっかりした思いを子どもと共有しようとしている教科書として三省堂のほうがよくかと思っているところです。

以上です。

○伊藤委員長

東京書籍と三省堂を推すというご意見がありました。

私ももう少し言い足させていただきますと、三省堂は文法の要点などを説明するときに必ず主語に黄色い、こういった網かけがされています。日本語は主語が曖昧です。だれがそれをしたなどとあまり言わなくていい言語です。そこが一番の相違点だと思いますけれども、英語では非常に主語が大事ですね。それを必ず意識させて、文法のまとめに主語の意識ということを見せている点は、これは評価できることではないかなというふうに思います。

それから導入のところで、東京書籍ではアニメや映画が生徒の興味・関心を引くという評価がございました。

そして、一方で三省堂では、例えば3年生でキング牧師を取り上げられていたり、人権・平和など、読みごたえのある文章があって、審議委員会からの報告でも生徒の知的関心が喚起されるという評価もございました。

それぞれのことかとも存じますが、さらにご発言はありますか。

それでは、今回は森井委員と荒畑委員が東京書籍と三省堂がいいというご発言がございましたので、今ここで一つに絞るのではなく、時間も大分押してまいりましたので、三省堂と東京書籍ということでさらに検討するという事にいたしましょうか。

—はいの声あり—

○伊藤委員長

それでは、英語の議案候補といたしましては、発行者名、東京書籍「NEW HORIZON」と三省堂「NEW CROWN」が妥当かと存じますが、いかがでございますか。よろしいですか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、そのようにいたします。

以上で本日の協議を終了いたします。

8月26日の教育委員会定例会では、本日の協議結果に基づきまして、種目ごとに候補を1者に絞ったものを議案の原案といたしたいと存じます。

8月26日、金曜日の開始時刻及び場所は、午後2時、市役所6階大会議室といたします。なお、参集時刻は午後1時30分といたします。

さらに、8月11日、木曜日に教育委員会臨時会を開催いたします。

議事日程は、「小平市立小学校給食の基本方針について」でございます。午前10時から市役所5階505会議室で開催いたします。参集時刻は、午前9時40分といたします。

以上をもちまして、本日の日程はすべて終了いたしました。これをもちまして、教育委員会8月臨時会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後5時22分 閉会